

令和2年度

和歌山国際厚生学院 理学療法学科

シラバス

学校法人 響和会
和歌山国際厚生学院

講義名	倫理学
講師名	西内 亮平
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間(講義)
講義目標	前半では、倫理学の基本的な考え方を習得する。それを踏まえ後半では、より身近にある生命や科学技術に関する倫理的問題を紹介・検討する。
シラバス	<p>第1回 倫理学とは? : メタ倫理・規範倫理・応用倫理</p> <p>第2回 メタ倫理 : Why be moral?</p> <p>第3回 義務論① : カントの定言命法</p> <p>第4回 義務論② : ロスの「一見自明な義務」</p> <p>第5回 功利主義① : 古典的功利主義</p> <p>第6回 功利主義② : ヘアの二層理論</p> <p>第7回 徳倫理</p> <p>第8回 ケアの倫理</p> <p>第9回 動物倫理① : シンガーの『動物の解放』</p> <p>第10回 動物倫理② : 人と動物とのかかわり</p> <p>第11回 生命倫理① : 死について</p> <p>第12回 生命倫理② : 生について</p> <p>第13回 ロボット倫理 : 人・サイボーグ・ロボットの境界</p> <p>第14回 医療倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	講義が中心の授業となります。
成績評価	期末試験、出席状況、授業態度などから総合的に判断します。
テキスト	<p>【留意事項】 適宜資料を配布する。</p> <p>参考図書, その他</p> <p>伊勢田哲治「動物からの倫理学入門」(名古屋大学出版会、2008年)</p> <p>その他、必要に応じ適宜紹介します。</p>

講義名	心理学
講師名	鍵井 一浩
学年・期	1年後期, 2単位, 30時間(講義)

講義目標 心理学の探求、解明に生涯をかけた先任たちの知恵を、科学的に解明しようとしている近年の心理学者たちの学問を身近に経験してもらい感じてもらう。

授業計画

- 第1回 心理学って何?
- 第2回 心理学でわかること
- 第3回 心理学を生かせる現場
- 第4回 心理学から人生を見つめ直す(心理学の現在・未来)
- 第5回 人づき合いの心理学 ①人間関係
- 第6回 人づき合いの心理学 ②他人の気持ち
- 第7回 人づき合いの心理学 ③イメージの心理学
- 第8回 心理学者から捉える心理学
- 第9回 心理学の発展①哲学から科学へ②無意識の発見
- 第10回 人間の成長で見る心理学①青少年期②成人期③中高年期④老年期
- 第11回 組織の中の人間行動①集団②リーダー③組織
- 第12回 元気をなくしたときの心理学①ストレス②心の病③心理療法
- 第13回 心を生み出す能のシステム①脳と心②記憶
- 第14回 性格と深層心理
- 第15回 夢分析 まとめ

履修上の注意

心理療法や心理テストを実際に経験し、理解していくために参加型授業を中心に展開しています。積極的な意見交換をしてもらいたい。

成績評価

出席、授業態度、参加度合い、試験をもとに総合的に判断します。

テキスト

面白いほどよくわかる!心理学の本(西集社)
渋谷 昌三

参考図書, その他

講義名	教育学
講師名	谷口知美
学年・期	1年前期. 2単位. 30時間(講義)
講義目標	受講生自身の被教育経験と授業内容をもとに、教育とは何か、学校とは何かと原理的に考える姿勢を養う。そのうえで、教をめぐり歴史を知り、子どもの発達をめぐり社会状況や、学力テストをめぐり実態についても理解し、自分なりの意見を形成する。
シラバス	<p>第1回 はじめに 教育学への誘い</p> <p>第2回 「学校」とは何か(1)</p> <p>第3回 「学校」とは何か(2)</p> <p>第4回 近代学校の成立</p> <p>第5回 教育現場における教育学研究(1)</p> <p>第6回 教育現場における教育学研究(2)</p> <p>第7回 子どもの発達をめぐり社会状況(1)</p> <p>第8回 子どもの発達をめぐり社会状況(2)</p> <p>第9回 労働法の教育</p> <p>第10回 「ブラック校則」(1)</p> <p>第11回 「ブラック校則」(2)</p> <p>第12回 「学力」は低下したのか</p> <p>第13回 学力テストの功罪</p> <p>第7回 共同的な学び</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	毎回ではないですが、意見や感想をコメントシートに書いてもらいます。
成績評価	コメントシートと最終試験の合計点で評価します。
テキスト	参考図書. その他
	【留意事項】 適宜資料を配布する。
	適時テーマで参考書を紹介
	系統看護学講座 基礎分野 教育学

講義名	物理学
講師名	篠塚 雄三
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間(講義)
講義目標	私たちは時間と空間の中に生きています。自然界の基本的なしくみを知る学問が物理学です。この講義では、人体や医療機器の様々な働きを物理学の視点から理解し考える能力を身につけることが目標です。
シラバス	<p>第1回 物理学で学習すること</p> <p>第2回 物理量とその表し方</p> <p>第3回 物理学で使うグラフと関数</p> <p>第4回 いろいろな運動</p> <p>第5回 さまざまな力</p> <p>第6回 力のつり合いと運動の法則</p> <p>第7回 物体の重心と回転運動</p> <p>第8回 運動量、仕事とエネルギー</p> <p>第9回 中間試験</p> <p>第10回 温度と熱</p> <p>第11回 波の運動</p> <p>第12回 音と光</p> <p>第13回 電気と力</p> <p>第14回 電流と磁気</p> <p>第15回 原子と放射線</p>
履修上の注意	授業を受けたその日のうちに復習をしっかりとすること。説明がわからない場合や内容が理解できない場合には、早めに質問して、疑問点を後まで残さないようにすること。日ごろから科学、技術に関するニュースに関心を持つこと。
成績評価	受講状況、レポート、試験を総合して行う。
テキスト	参考図書, その他
	PT・OTゼロからの物理学 望月久、棚橋信雄著 羊土社

講義名	情報処理・医療統計学
講師名	松井 有史
学年・期	1年後期. 2単位. 30時間
講義目標	1.確率の基本を理解し、使える。2.確率分布の基本を理解し、使える。3.統計的推定を理解し、基本的な推定が出来る。4. 統計的検定を理解し、基本的な検定が出来る。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> 第1回 パソコンの使い方 Word 第2回 パソコンの使い方 Word 第3回 パソコンの使い方 PowerPoint 第4回 パソコンの使い方 PowerPoint 第5回 パソコンの使い方 Excel 第6回 パソコンの使い方 Excel 第7回 医療統計学 ガイダンス 第8回 平均 分散 標準偏差 第9回 正規分布 偏差値 第10回 標本 信頼区間 第11回 t 検定 1 第12回 t 検定 2 第13回 一元配置分散分析 第14回 相関係数 第15回 まとめ
履修上の注意	講義を中心に進め、講義の終わりに問題演習を提出してもらう。自分で納得し自分で考え使ってみることで理解を深め、統計の考え方見方を将来使えるものにしてください。
成績評価	試験の結果を主に、各時間の提出問題と出席も含めて総合的に判定する。
テキスト	<p style="text-align: center;">参考図書. その他</p> 「医学・保健学のためのやさしい統計学」正井栄一著 金原出版 多数出版されています、自分に合うものを見つけてください

講義名	生涯スポーツ
講師名	加藤 弘
学年・期	1年後期, 2単位, 30時間(講義)
講義目標	生涯スポーツに関する理論・演習・実技などを通して、その持つ意義など理解するとともに、理学療法と運動(スポーツ)との関連やその活用方法などを探る。又、理学療法の分野における生涯スポーツプログラム開発、スポーツ大会等の企画・立案、大会の運営方法など学習し、実践力を高める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスと生涯スポーツ概論</p> <p>第2回 理論(健康・体力づくりと運動, 運動種目・内容, 運動の質と量, 安全管理など)</p> <p>第3回 実技・演習(歩く・オリエンテーリングの理論と実際)</p> <p>第4回 実技(オリエンテーリング大会)</p> <p>第5回 演習・研究(研究発表テーマの設定, 研究の方法, グループ活動)</p> <p>第6回 実技・演習(体操の目的, 構成, 種類, 実施方法)</p> <p>第7回 実技・発表(体操創作, 体操創作の基本, 創作, 創作発表)</p> <p>第8回 演習(企画書の作成)</p> <p>第9回 演習(グループ別に, テーマ設定し, 企画書を作成・発表)</p> <p>第10回 自主作成プログラム①</p> <p>第11回 自主作成プログラム①</p> <p>第12回 自主作成プログラム①</p> <p>第13回 自主作成プログラム①</p> <p>第14回 自主作成プログラム①</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では運動可能な服装を準備すること。
成績評価	出席状況と研究発表により判断する。 単位認定者: 加藤 弘
テキスト	参考図書, その他
	【留意事項】適宜資料を配布する。

講義名	英語
講師名	スミス エイドリアン
学年・期	1年前期. 2単位. 30時間(講義)
講義目標	基本的な英文の理解と, 英語の学習法について学ぶ, 医療と健康について, 英語を通じて理解することを目標とする.
シラバス	第1回 Introduction, Lesson 1 第2回 Lesson 2 第3回 Lesson 3 第4回 Lesson 4 第5回 Lesson 5 第6回 Lesson 6 第7回 Lesson 7 第8回 Lesson 8 第9回 Lesson 9 第10回 Lesson 10 第11回 Lesson 11 第12回 Lesson 12 第13回 Lesson 13 第14回 Intro to physiotherapy 第15回 Checks for test
履修上の注意	教室での講義が中心となるので, 筆記用具は必須.
成績評価	期末試験, 小テスト, 出席状況を総合して判断する. 単位認定者: スミス エイドリアン
テキスト	参考図書. その他 English for Nurses(朝日 出版社)

講義名	医学英語
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年前期, 2単位, 30時間（講義）
講義目標	理学療法に求められる英語力を総合的・体系的に習得し、簡単な英語論文の概要を理解することを目標とする。
授業計画	第1回 Human Body ① 第2回 Human Body ② 第3回 Chapter III - ① 第4回 Chapter III - ② 第5回 Chapter III - ③ 第6回 Chapter II - ① 第7回 Chapter II - ② 第8回 Chapter I - ① 第9回 Chapter I - ② 第10回 Chapter IV（Bone Fracture①） 第11回 Chapter IV（Bone Fracture②） 第12回 Abstractの翻訳① 第13回 Abstractの翻訳② 第14回 まとめ 第15回 まとめテスト
履修上の注意	予習・復習をしてください。
成績評価	講義後の小テストの平均点(20点)+まとめテスト(80点)の成績にて総合的に判断する。 単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書, その他
リハビリテーションの基礎英語 メディカルビュー社	配布資料

講義名	社会の理解
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	1年前期，2単位，30時間（講義）
講義目標	本講義では、患者等の良好な人間関係を築くため、医療従事者として必要な医療接遇スキルの必要性の理解と演習を通して、より実践的にその能力が発揮できるようになることを目的とする。
シラバス	<p style="text-align: center;">内容</p> <p>第1回 コミュニケーションとは あいさつ ガイダンス</p> <p>第2回 実践行動学 1</p> <p>第3回 実践行動学 2</p> <p>第4回 実践行動学 3</p> <p>第5回 実践行動学 4</p> <p>第6回 実践行動学 5</p> <p>第7回 実践行動学 6</p> <p>第8回 医療従事者のコミュニケーション 1</p> <p>第9回 医療従事者のコミュニケーション 2</p> <p>第10回 医療従事者のコミュニケーション 3</p> <p>第11回 医療従事者のコミュニケーション 4</p> <p>第12回 医療従事者のコミュニケーション 5</p> <p>第13回 医療従事者のコミュニケーション 6</p> <p>第14回 人間関係論 1</p> <p>第15回 人間関係論 2</p>
履修上の注意	予習復習を行うこと。本講義は人とのコミュニケーションを考察することが本懐であるため、日頃より対話力や傾聴力を鍛えておくこと。
成績評価	期末試験、出席状況を総合して判断する。単位認定者：松井
テキスト	参考図書，その他
	【留意事項】 適宜資料を配布する。

講義名	人体の構造 I (解剖学) ①
講師名	石橋 誠隆 (実務家教員)
学年・期	1 年前期. 通年3単位 (2/3単位). 60/90時間 (講義)
講義目標	本講義では理学療法士として必要な医学的知識のなかで、人体の正常な構造 (骨・筋・靭帯・神経etc) について理解することを目的としています。 ①組織・身体の区分・用語について、②骨・筋・神経・靭帯などについて理解する。
シラバス	<p>第1回 解剖学総論 (身体の区分)</p> <p>第2回 解剖学総論 (面や方向を示す用語)</p> <p>第3回 解剖学総論 (骨の構造)</p> <p>第4回 解剖学総論 (筋の構造)</p> <p>第5回 解剖学総論 (関節の形態と可動域①分類と構造)</p> <p>第6回 解剖学総論 (関節の形態と可動域②形状と動き)</p> <p>第7回 上肢の骨① (肩甲骨・鎖骨・上腕骨)</p> <p>第8回 上肢の骨② (尺骨～指骨)</p> <p>第9回 上肢の関節① (胸鎖関節～肘関節)</p> <p>第10回 上肢の関節② (上橈尺関節～指節間関節)</p> <p>第11回 上肢の筋① (胸部・背部浅層)</p> <p>第12回 上肢の筋② (肩甲骨周辺・上腕)</p> <p>第13回 上肢の筋③ (前腕・手)</p> <p>第14回 上肢の筋膜</p> <p>第15回 上肢の神経</p>
履修上の注意	解剖学テキストと配布資料を使った講義となります。予習復習をしっかりと行い内容の理解に努めてください。
成績評価	課題提出状況・確認小テスト・期末試験などから総合的に判断する。 単位認定者：石橋 誠隆
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学第1版 坂井建雄監修 (羊土社)</p> <p>参考図書. その他 プロメテウス 解剖アトラス 解剖学総論/運動器系 (医学書院)</p>

講義名	人体の構造 I (解剖学) ②
講師名	石橋 誠隆 (実務家教員)
学年・期	1 年前期. 通年3単位 (2/3単位). 60/90時間 (講義)
講義目標	本講義では理学療法士として必要な医学的知識のなかで、人体の正常な構造 (骨・筋・靭帯・神経etc) について理解することを目的としています。 ①組織・身体の区分・用語について、②骨・筋・神経・靭帯などについて理解する。
シラバス	<p>第16回 上肢の脈管</p> <p>第17回 下肢の骨① (寛骨)</p> <p>第18回 下肢の骨② (大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)</p> <p>第19回 下肢の骨③ (足根骨・中足骨・趾骨)</p> <p>第20回 下肢の関節① (股関節)</p> <p>第21回 下肢の関節② (膝関節)</p> <p>第22回 下肢の関節③</p> <p>第23回 下肢の筋①</p> <p>第24回 下肢の筋②</p> <p>第25回 下肢の筋③</p> <p>第26回 下肢の筋④</p> <p>第27回 下肢の筋膜</p> <p>第28回 下肢の神経</p> <p>第29回 下肢の脈管</p> <p>第30回 まとめ</p>
履修上の注意	解剖学テキストと配布資料を使った講義となります。予習復習をしっかりと行い内容の理解に努めてください。
成績評価	課題提出状況・確認小テスト・期末試験などから総合的に判断する。 単位認定者：石橋 誠隆
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学第1版 坂井建雄監修 (羊土社)</p> <p>参考図書. その他 プロメテウス 解剖アトラス 解剖学総論/運動器系 (医学書院)</p>

講義名	人体の構造 I (解剖学) ③
講師名	石橋 誠隆 (実務家教員)
学年・期	1年 (後期) . 通年3単位 (1/3単位) . 30/90時間 (講義)
講義目標	本講義では理学療法士として必要な医学的知識のなかで、人体の正常な構造 (骨・筋・靭帯・神経etc) について理解することを目的としています。 ①組織・身体の区分・用語について、②骨・筋・神経・靭帯などについて理解する。
シラバス	<p>第31回 頭部の骨はいくつある？ (頭蓋の骨、脳頭蓋・顔面頭蓋を構成する骨)</p> <p>第32回 頭部は複雑な迷路 ～前編～ (頭蓋の構造物)</p> <p>第33回 頭部は複雑な迷路 ～後編～ (頭蓋の構造物)</p> <p>第34回 背骨 (椎骨) のいろいろ (椎骨の基本形、頸椎)</p> <p>第35回 椎骨ってビミョーに違う！ (胸椎、腰椎、仙骨、尾骨)</p> <p>第36回 胸郭の骨、覚えた？ ～前編～ (胸郭の骨格、胸郭口、胸椎、肋骨、典型的な肋骨の構造)</p> <p>第37回 胸郭の骨、覚えた？ ～後編～ (非典型的な肋骨の構造、肋軟骨、胸骨)</p> <p>第38回 あなたの頭と身体をつなぐもの① (頭部の関節、脊柱の関節)</p> <p>第39回 あなたの頭と身体をつなぐもの② (脊柱の関節)</p> <p>第40回 顔を動かせ！ (顔面の筋)</p> <p>第41回 頸を動かせ！ (頸部の筋、頸部の筋膜)</p> <p>第42回 体幹の筋①チェスト！ (胸部の筋)</p> <p>第43回 体幹の筋②Oopack?! 骨盤底筋も忘れずに！ (腹部・骨盤底の筋)</p> <p>第44回 体幹の筋③姿勢を整えろ！ (背部の筋)</p> <p>第45回 体幹の筋膜</p>
履修上の注意	解剖学テキストと配布資料を使った講義となります。予習復習をしっかりと行い内容の理解に努めてください。
成績評価	課題提出状況・確認小テスト・期末試験などから総合的に判断する。 単位認定者：石橋 誠隆
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学第1版 坂井建雄監修 (羊土社)</p> <p>プロメテウス 解剖アトラス 解剖学総論/運動器系 (医学書院)</p>

講義名	人体の構造Ⅱ（解剖学）
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	1年後期, 1単位, 30時間（講義）
講義目標	本講義では理学療法士として必要な医学的知識のなかで、人体の正常な神経系の構造について理解することを目的としています。 ①神経の構造・種類、②中枢神経の役割・経路、③末梢神経（脳神経を含む）の役割・経路について理解する。
シラバス	<p>第1回 ミクロの世界へ ～神経系を構成する細胞～</p> <p>第2回 発生 ～神経の成長をたどる～</p> <p>第3回 ”溝” ”回” ”葉” ”野” 大脳（終脳）①大脳皮質の名称</p> <p>第4回 頭の中の役割地図 大脳（終脳）②大脳皮質の機能局在</p> <p>第5回 運動・情動・本能の調整役 大脳（終脳）③大脳基底核、大脳辺縁系</p> <p>第6回 集まる線維！保つ空間！ 大脳（終脳）④大脳髄室・脳室・髄膜</p> <p>第7回 統合的調整役と中継役 小脳・間脳</p> <p>第8回 生命の中核と運動動作の調整 脳幹</p> <p>第9回 トンネルを走る情報経路 脊髄</p> <p>第10回 情報は早く、正確に、中枢へ集めろ！ 伝導路（上行路）</p> <p>第11回 動け！身体！指令を伝える。 伝導路（下行路）</p> <p>第12回 情報は隅々まで！隅々から！ 末梢神経の構成・区分</p> <p>第13回 嗅いで視ろ、顔を感じて噛みくだけ！ 脳神経①</p> <p>第14回 表情と頸部の運動！聞いて味わえ！バランス！内臓も！</p> <p>第15回 活動性をコントロール！ 自律神経</p>
履修上の注意	解剖学テキストと配布資料を使った講義となります。予習復習をしっかりと行い内容の理解に努めてください。
成績評価	課題提出状況・確認小テスト・期末試験などから総合的に判断する。 単位認定者：石橋 誠隆
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学第1版 坂井建雄監修（羊土社）</p> <p>参考図書, その他 プロメテウス 解剖アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）</p>

講義名	機能解剖学Ⅰ
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	1年前期，1単位，30時間（講義）
講義目標	理学療法士の基礎の3本柱は解剖学・生理学・運動学である。その中、機能解剖学はⅠ、Ⅱに分担されており、機能解剖学Ⅰは呼吸器系、循環器系、感覚器系を受け持つ。内容は、それぞれの構造の名称とその機能・役割を学習する。特に機能解剖学Ⅰは運動に関係する内容であり、理学療法を学ぶための基礎分野であることを肝に銘じてほしい。
シラバス	<p>第1回 循環器系 肺循環と体循環、血管の構造</p> <p>第2回 肺循環と体循環、血管の構造</p> <p>第3回 心臓の構造と役割</p> <p>第4回 心臓の構造と役割</p> <p>第5回 静脈と動脈について</p> <p>第6回 静脈と動脈について</p> <p>第7回 呼吸器系 呼吸の仕組み鼻から気管支まで</p> <p>第8回 呼吸器系 呼吸の仕組み鼻から気管支まで</p> <p>第9回 肺の構造と仕組み</p> <p>第10回 肺の構造と仕組み</p> <p>第11回 肺を取り巻く動脈と静脈、末梢神経</p> <p>第12回 肺を取り巻く動脈と静脈、末梢神経</p> <p>第13回 循環と呼吸の関係</p> <p>第14回 感覚器系 外皮・視覚器・平衡感覚</p> <p>第15回 味覚器・まとめ</p>
履修上の注意	解剖学は、テキストを中心に行う。構造とそれが身体のどこに位置するのか。また、その臓器の役割は何かを学習する。さらに、ノートにしっかりとまとめることが肝要である。
成績評価	小試験・課題・期末試験などを総合して判断する 単位認定者：笠井 正
テキスト	解剖学（第1版）PT・OTビジュアルテキスト（羊土社）
参考図書、その他	プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系（医学書院）

講義名	機能解剖学Ⅱ		
講師名	笠井 正（実務家教員）		
学年・期	1年前期，1単位，30時間（講義）		
講義目標	機能解剖学Ⅱでは、消化器系、内分泌系、泌尿器系の構造とその機能・役割を学習する。		
シラバス	第1回	消化器系	口腔から咽頭まで
	第2回		食道から大腸まで
	第3回		肝臓の構造と機能について
	第4回		肝臓の構造と機能について
	第5回		胆嚢・膵臓・脾臓の構造について
	第6回		胆嚢・膵臓・脾臓の構造について
	第7回		腹膜について・嚥下とは
	第8回	内分泌系	内分泌と外分泌、内分泌腺の種類、ホルモンの特徴、視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺について
	第9回		
	第10回		膵臓、副腎・腎臓について
	第11回		膵臓、副腎・腎臓について
	第12回		性腺、心臓・脂肪細胞について
	第13回	泌尿器系	腎臓について
	第14回		排尿器官としての構造について
	第15回		排尿器官としての構造について
履修上の注意	解剖学は、テキストを中心に行う。構造とそれが身体のどこに位置するのか。また、その臓器の役割は何かを学習する。さらに、ノートにしっかりとまとめることが肝要である。		
成績評価	小試験・課題・期末試験などを総合して判断する。 単位認定者：笠井 正		
テキスト	解剖学（第1版）PT・OTビジュアルテキスト（羊土社）		
参考図書、その他	プロメテウス 解剖学アトラス		

講義名	人体の機能 I (生理学)
講師名	堂西 倫弘
学年・期	1年後期, 2単位, 60時間 (講義)
講義目標	医学に関する領域において、人体の構造と機能を十分に理解しておくことは極めて重要である。 本講義では人体の正常な機能を知るために一般生理学について学ぶ。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> 第1回 生理学とは 序説 第2回 細胞と内部環境 第3回 栄養の消化と吸収 ① 第4回 栄養の消化と吸収 ② 第5回 栄養の消化と吸収 ③ 第6回 呼吸と血液 ① 第7回 呼吸と血液 ② 第8回 呼吸と血液 ③ 第9回 血液の循環・調節 ① 第10回 血液の循環・調節 ② 第11回 血液の循環・調節 ③ 第12回 体液の調節と尿の生成 ① 第13回 体液の調節と尿の生成 ② 第14回 体液の調節と尿の生成 ③ 第15回 まとめ
履修上の注意	講義が中心となります
成績評価	定期試験・中間試験の成績を中心に評価します。 単位認定者：堂西 倫弘
テキスト	<p style="text-align: center;">参考図書, その他</p> 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能医学書院

講義名	人体の機能 I (生理学)
講師名	堂西 倫弘
学年・期	1年後期, 2単位, 60時間 (講義)
講義目標	医学に関する領域において、人体の構造と機能を十分に理解しておくことは極めて重要である。 本講義では人体の正常な機能を知るために一般生理学について学ぶ。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> 第16回 性と生殖 ① 第17回 性と生殖 ② 第18回 神経系 ① 第19回 神経系 ② 第20回 末梢・中枢神経 ① 第21回 末梢・中枢神経 ② 第22回 感覚 ① 第23回 感覚 ② 第24回 筋収縮 ① 第25回 筋収縮 ② 第26回 代謝と体温 ① 第27回 代謝と体温 ② 第28回 運動生理 ① 第29回 運動生理 ② 第30回 まとめ
履修上の注意	講義が中心となります
成績評価	定期試験・中間試験の成績を中心に評価します。 単位認定者：堂西 倫弘
テキスト	<p style="text-align: center;">参考図書, その他</p> 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能医学書院

講義名	人体の機能Ⅱ（生理学実習）
講師名	松井有史 福井直樹 笠井正 河西紀秀 石橋誠隆 （全員実務家教員）
学年・期	1年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	人体の機能Ⅰ（生理学）の諸概念は観察や実験に基づいて得られるものである。本講義では理学療法士の臨床研究で用いることの多い実験装置を用いて、生体のさまざまな反応を観察する。また、この講義を通して、実験装置の取り扱い、実験計画、データの分析、考察の基本を学ぶことを目的とする。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> 第1回 筋電図(松井) 第2回 筋電図(松井) 第3回 筋電図(松井) 第4回 呼気ガス分析(福井) 第5回 呼気ガス分析(福井) 第6回 呼気ガス分析(福井) 第7回 バイタルサイン(笠井) 第8回 バイタルサイン(笠井) 第9回 バイタルサイン(笠井) 第10回 筋力評価(河西) 第11回 筋力評価(河西) 第12回 筋力評価(河西) 第13回 3次元動作解析(石橋) 第14回 3次元動作解析(石橋) 第15回 3次元動作解析(石橋)
履修上の注意	実習が中心ですので運動のできる服装と各講義に必要な資料・書籍を持参すること。グループに分けて講義・実習を進行します。
成績評価	講義後の確認テストにて総合的に評価。 単位認定者：松井有史
テキスト	参考図書. その他
	適時必要なもの

講義名	運動学
講師名	畑山 大輔（実務家教員）
学年・期	2年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	身体の運動メカニズムを理解する上で必要な知識を学習する。身体を上肢帯・下肢帯・体幹と分けることで基礎的な運動を理解し、その統合的視点の一つとして姿勢制御・歩行動作を理解することで、身体運動のメカニズムを理解することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 運動学総論 ～理学療法士と運動学の関係～</p> <p>第2回 生体力学の基礎編</p> <p>第3回 生体力学の応用編</p> <p>第4回 肩関節の運動学</p> <p>第5回 肩関節の運動学</p> <p>第6回 肘関節の運動学</p> <p>第7回 肘関節の運動学</p> <p>第8回 手・手指関節の運動学</p> <p>第9回 手・手指関節の運動学</p> <p>第10回 体幹の運動学(頸部)</p> <p>第11回 体幹の運動学(胸椎・胸郭)</p> <p>第12回 体幹の運動学(腰部・骨盤帯)</p> <p>第13回 顔面・頭部の運動学</p> <p>第14回 股関節の運動学</p> <p>第15回 股関節の運動学</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・各応用編は実際に筋肉を触って動きを確かめます。出来るだけ肌が露出しやすい服装を用 意してください。 ・講義毎に小テスト(復習)を行います
成績評価	出席状況と受講態度、確認テスト、定期試験を総合的に評価する。単位認定者：畑山
テキスト	参考図書, その他
	基礎運動学 第6版 中村隆一 他 著 適時必要なプリントを配布

講義名	運動学
講師名	畑山 大輔（実務家教員）
学年・期	2年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	身体の運動メカニズムを理解する上で必要な知識を学習する。身体を上肢帯・下肢帯・体幹と分けることで基礎的な運動を理解し、その統合的視点の一つとして姿勢制御・歩行動作を理解することで、身体運動のメカニズムを理解することを目的とする。
授業計画	<p>第16回 膝関節の運動学</p> <p>第17回 膝関節の運動学</p> <p>第18回 足関節・足部の運動学</p> <p>第19回 足関節・足部の運動学</p> <p>第20回 姿勢 : 重心位置やアライメントをみる</p> <p>第21回 姿勢 : 重心位置やアライメントをみる</p> <p>第22回 姿勢 : 姿勢制御について</p> <p>第23回 姿勢 : 姿勢制御について</p> <p>第24回 歩行 正常歩行</p> <p>第25回 歩行 正常歩行</p> <p>第26回 歩行 正常歩行</p> <p>第27回 歩行 異常歩行</p> <p>第28回 姿勢と歩行 確認テスト</p> <p>第29回 総まとめ</p> <p>第30回 総まとめ（最重要ポイントの復習）</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 各応用編は実際に筋肉を触って動きを確かめます。出来るだけ肌が露出しやすい服装を用意してください。 講義毎に小テスト(復習)を行います
成績評価	出席状況と受講態度、確認テスト、定期試験を総合的に評価する。単位認定者：畑山
テキスト	参考図書、その他
	基礎運動学 第6版 中村隆一 他 著 適時必要なプリントを配布

講義名	運動生理学
講師名	加藤 弘
学年・期	2年後期, 1単位, 30時間(講義)
講義目標	運動学と生理学についての基礎学力を基に、理学療法に不可欠な応用理論の理解へとつながる授業を行う。 また、運動生理学という学問を身近に感じられるように、日常生活とリンクさせた授業を展開する。
授業計画	第1回 呼吸について 第2回 第3回 循環について 第4回 第5回 栄養について 第6回 第7回 代謝(体温)について 第8回 第9回 自律神経機能 第10回 第11回 中枢神経 第12回 第13回 末梢神経 第14回 第15回 まとめ
履修上の注意	授業の進行具合により変更あり
成績評価	期末試験、小テスト、提出物、出席状況を総合して判断する。単位認定者：加藤
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 生理学 基礎運動学 中村 隆一 著 奈良 勲 編集 医学書院 医歯薬出版株式会社 人体解剖学 藤田 恒太郎 著 南江堂

講義名	臨床運動学
講師名	加藤 弘
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	臨床場面における患者の様々な動き（運動学的側面）について、グループ単位で設定された課題に取り組むことができる授業を行う。 特に専門用語などは国家試験を見据え説明する。 学生が積極的に授業参加できるようactiveな授業を行いたい。
授業計画	第1回 関節運動について① 第2回 関節運動について② 第3回 筋活動と筋緊張① 第4回 筋活動と筋緊張② 第5回 反射と反応① 第6回 反射と反応② 第7回 姿勢について① 第8回 姿勢について② 第9回 随意運動と不随意運動① 第10回 随意運動と不随意運動② 第11回 随意運動と不随意運動③ 第12回 歩行① 第13回 歩行② 第14回 歩行③ 第15回 まとめ
履修上の注意	授業の進行具合により変更あり
成績評価	期末試験、小テスト、提出物、出席状況を総合して判断する。単位認定者：加藤
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 生理学 基礎運動学 中村 隆一 著 奈良 勲 編集 医学書院 医歯薬出版株式会社 人体解剖学 藤田 恒太郎 著 南江堂
参考図書、その他	

講義名	応用運動学
講師名	矢野 勝
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	よい動きとは、どのようなことなのか？マイネルの運動学をもとに、動きの質について把握できるように学習する。また、上手いスポーツ動作や巧みな動きについてスポーツバイオメカニクスの観点からもアプローチする。そして、よい動きへの運動指導の方法について学習していく。
授業計画	第1回 ガイダンス・動機づけ 第2回 スポーツと体力 第3回 スポーツにおける体力と技術 第4回 上手い動き・巧みな動き 第5回 古武術の動き 第6回 古武術の動きを体感し、運動学的に視る 第7回 マイネルの運動学 第8回 よい動きのバイオメカニクスの原則 第9回 コーチングにかかわる動機づけ 第10回 メンタルトレーニング 第11回 スポーツ運動の学習（練習と指導） 第12回 体育指導における言語教示と示範 第13回 運動指導の方法 第14回 運動指導実習① 第15回 運動指導実習②
履修上の注意	やる気のない人は、授業をうけることができません
成績評価	出席状況、提出物、定期試験から総合的に評価する。単位認定者：矢野 勝
テキスト	参考図書. その他 特には指定しない。
	「体育・スポーツ指導のための動きの質的分析入門」阿江通良訳、NAP 「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良著、朝倉書店

講義名	運動器学
講師名	林 洋平（実務家教員）
学年・期	1年後期（通年）. 1/2単位. 30/60時間（講義）
講義目標	健常者の運動に対する生理反応を理解する。運動器障害を有する高齢者、循環器、呼吸器を はじめとする内部障害などを持つ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解する。
授業計画	第1回 筋の運動生理学 第2回 呼吸の運動生理学 第3回 循環の運動生理学① 第4回 循環の運動生理学② 第5回 関節の運動生理学 第6回 体温の運動生理学 第7回 栄養の運動生理学 第8回 内分泌の運動生理学 第9回 身体組成 第10回 運動療法・トレーニング効果 第11回 運動負荷試験 第12回 フィールドテスト 第13回 運動に関する諸計算 第14回 実習 第15回 中間試験
履修上の注意	配布資料を使った講義になります。適宜実習を行います。
成績評価	中間試験・期末試験・レポート提出・出席状況などを総合して判断する。
テキスト	参考図書, その他
スライド配布資料	リハビリテーション運動生理学 MEDICALVIEW出版 運動生理学20講 朝倉書店 運動生理学 三共出版 その他必要に応じて

講義名	運動器学
講師名	林 洋平（実務家教員）
学年・期	1年後期（通年）. 1/2単位. 30/60時間（講義）
講義目標	健常者の運動に対する生理反応を理解する。運動器障害を有する高齢者、循環器、呼吸器をはじめとする内部障害などを持つ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解する。
授業計画	第16回 筋機能・関節障害と運動 第17回 呼吸機能障害と運動 第18回 心肺機能障害を運動 第19回 末梢循環障害と運動 第20回 代謝疾患と運動 第21回 骨粗鬆症と運動① 第22回 骨粗鬆症と運動② 第23回 腎機能障害と運動 第24回 加齢と運動 第25回 運動と認知機能 第26回 運動と免疫、運動と酸化ストレス 第27回 運動と発育発達 第28回 アスリートの特性 第29回 運動器実習 第30回 まとめ
履修上の注意	配布資料を使った講義になります。適宜実習を行います。
成績評価	中間試験・期末試験・レポート提出・出席状況などを総合して判断する。
テキスト	参考図書. その他 リハビリテーション運動生理学 MEDICALVIEW出版 運動生理学20講 朝倉書店 運動生理学 三共出版 その他必要に応じて

講義名	人の一生の理解 I (人間発達学)	
講師名	中 俊博	
学年・期	1年後期. 1単位. 30時間 (講義・実技)	
講義目標	人の一生を「生涯発達」の視点で捉え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の過程で生じる生理的（身体・運動）、心理的発達について学習する。これにより、人の支援に関わる専門家が習得すべき人間行動理解の基礎を形成することを目的とする。	
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> <p>第1回 身体発達学（発育・発達に及ぼす要因としての運動）</p> <p>第2回 身体測定の間緯・統計からさぐる身体発育と栄養</p> <p>第3回 体位血圧反射測定と自律神経機能【実習】</p> <p>第4回 発育・発達のゆがみ現象（浮き足、外反母趾測定）【実習】</p> <p>第5回 生活体力測定【実習】</p> <p>第6回 オーバーユーストレーニング症候群（青少年期の運動）</p> <p>第7回 エクセルによる統計1 資料要約と評価【実習：パソコン持参】</p> <p>第8回 エクセルによる統計2 相関と検定【実習：パソコン持参】</p> <p>第9回 スポーツは何故ストレス解消によいのか</p> <p>第10回 メタボリックシンドローム、サルコペニア肥満</p> <p>第11回 加齢による身体変化（高年期の運動・介護予防運動）</p> <p>第12回 介護予防とレクリエーション【実習】【レポート課題】</p> <p>第13回 レポートテーマの発表1</p> <p>第14回 テストに挑戦（模擬テスト）</p> <p>第15回 レポート作成（テスト）</p>	
履修上の注意	講義日により準備物および使用教室が変更となります。	
成績評価	課題提出、出席状況を総合して判断する。	単位認定者：中
テキスト	参考図書、その他	
	毎時プリント配布します	

講義名	人の一生の理解Ⅱ
講師名	丹葉 寛之（実務家教員）
学年・期	1年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	①発達の諸原則、ライフステージに応じた発達課題を理解することができる ②運動発達、認知発達、日常生活動作に関する発達を理解することができる
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> 第1回 発達に見られる諸原則について 第2回 ライフステージと発達課題について 第3回 胎生期の特徴 第4回 乳児期の特徴／姿勢反射・反応 第5回 身体、姿勢・移動動作の発達(1)基本原理 第6回 身体、姿勢・移動動作の発達（2）乳児期 第7回 身体、姿勢・移動動作の発達（3）乳児期 第8回 身体、姿勢・移動動作の発達(4)幼児期 第9回 目と手の協調の発達（1）乳児期 第10回 目と手の協調の発達（2）幼児期 第11回 日常生活における諸活動の発達（食事動作の発達①） 第12回 日常生活における諸活動の発達（食事動作の発達②） 第13回 日常生活における諸活動の発達（排泄行動の発達） 第14回 日常生活における諸活動の発達（更衣の発達） 第15回 日常生活における諸活動の発達（遊びの発達）
履修上の注意	毎回プリント配布
成績評価	期末試験、小テスト、出席状況を総合して判断する。単位認定者：丹葉
テキスト	<p style="text-align: center;">参考図書. その他</p> 適宜資料を配布します 上杉雅之：イラストでわかる人間発達学 奈良勲：標準理学療法学・作業療法学 人間発達学

講義名	病理学概論																																																												
講師名	及川 恒輔																																																												
学年・期	1年後期, 1単位, 30時間(講義)																																																												
講義目標	病理学とは、病気の原因や発生機構を解明し、病気による形態と機能の変化を明らかにすることにより病気の本態を研究する学問である。本講義では、基本的な病変とその成立起序を学ぶ。																																																												
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> <table> <tr> <td>第1回</td> <td>総論</td> <td>病理学の概要</td> <td>病因論</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td></td> <td>退行性病変、進行性病変</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td></td> <td>代謝障害</td> <td>循環障害</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td></td> <td>免疫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td></td> <td>炎症、感染症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td></td> <td>腫瘍 その1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td></td> <td>腫瘍 その2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> <td>老化</td> <td>先天異常、奇形</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td></td> <td>中間試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>各論</td> <td>循環器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> <td>呼吸器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td></td> <td>消化器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> <td>神経系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td></td> <td>運動器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td></td> <td>泌尿・生殖器</td> <td>他</td> </tr> </table>	第1回	総論	病理学の概要	病因論	第2回		退行性病変、進行性病変		第3回		代謝障害	循環障害	第4回		免疫		第5回		炎症、感染症		第6回		腫瘍 その1		第7回		腫瘍 その2		第8回		老化	先天異常、奇形	第9回		中間試験		第10回	各論	循環器		第11回		呼吸器		第12回		消化器		第13回		神経系		第14回		運動器		第15回		泌尿・生殖器	他
第1回	総論	病理学の概要	病因論																																																										
第2回		退行性病変、進行性病変																																																											
第3回		代謝障害	循環障害																																																										
第4回		免疫																																																											
第5回		炎症、感染症																																																											
第6回		腫瘍 その1																																																											
第7回		腫瘍 その2																																																											
第8回		老化	先天異常、奇形																																																										
第9回		中間試験																																																											
第10回	各論	循環器																																																											
第11回		呼吸器																																																											
第12回		消化器																																																											
第13回		神経系																																																											
第14回		運動器																																																											
第15回		泌尿・生殖器	他																																																										
履修上の注意	講義が中心となります																																																												
成績評価	定期試験の成績を中心に評価します。 単位認定者：及川 恒輔																																																												
テキスト	<p style="text-align: center;">参考図書, その他</p> <p>標準理学療法学・作業療法学 病理学 梶原博毅 他 執筆 医学書院</p>																																																												

講義名	整形外科学
講師名	畑山 大輔（実務家教員）
学年・期	2年後期, 2単位, 60時間（講義）
講義目標	整形外科の基礎知識の習得を目標とする。 また、理学療法士としての整形外科疾患の視点を学ぶ。
授業計画	第1回 整形外科と理学療法士 第2回 整形外科基礎知識 組織の治癒過程 第3回 運動器の評価および検査法 第4回 整形外科的治療法 第5回 炎症性疾患 第6回 代謝・内分泌性疾患、退行性疾患 第7回 先天性骨・関節疾患 第8回 循環障害と壊死性疾患 第9回 骨・軟部腫瘍 第10回 神経・筋疾患 第11回 脊椎の疾患（医療画像） 第12回 脊椎の疾患 第13回 骨折（医療画像） 第14回 骨折 第15回 画像診断
履修上の注意	基本的には教科書と参考図書をベースに授業を展開する。 必要な場合のみプリント資料を配布する。
成績評価	出席状況と受講態度、確認テスト、定期試験を総合的に評価する。単位認定者：畑山
テキスト	標準理学療法・作業療法学 整形外科学第4版 立野 勝彦 著（医学書院）
参考図書、その他	標準整形外科学第13版 松野 丈夫 他著（医学書院） 必要な場合は適時プリントを配布

講義名	整形外科学
講師名	畑山 大輔（実務家教員）
学年・期	2年後期, 2単位, 60時間（講義）
講義目標	整形外科の基礎知識の習得を目標とする。 また、理学療法士としての整形外科疾患の視点を学ぶ。
授業計画	第16回 画像診断 第17回 脊髄損傷 第18回 関節における外傷性疾患 第19回 関節における外傷性疾患 第20回 末梢神経における外傷性疾患 第21回 腱・靭帯における外傷性疾患 第22回 腱・靭帯における外傷性疾患 第23回 スポーツ障害 第24回 熱傷・切断および離断 第25回 痛み(pain)とは 第26回 痛み(pain)とは 第27回 症例検討① 第28回 症例検討② 第29回 総まとめ 第30回 総まとめ
履修上の注意	基本的には教科書と参考図書に基づいて授業を展開する。 必要な場合のみプリント資料を配布する。
成績評価	出席状況と受講態度、確認テスト、定期試験を総合的に評価する。単位認定者：畑山
テキスト	標準理学療法・作業療法学 整形外科学第4版 立野 勝彦 著（医学書院）
参考図書、その他	標準整形外科学第13版 松野 丈夫 他著（医学書院） 必要な場合は適時プリントを配布

講義名	臨床神経学（神経内科学）	
講師名	笠井 正（実務家教員）	
学年・期	2年前期，1単位，30時間（講義）	
講義目標	神経内科疾患の概要を理解し，リハビリテーション技術への応用をはかる	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神経内科学とは</p> <p>第2回 意識障害について、その評価（JCS,GCS）</p> <p>第3回 頭痛、めまいの症状、運動神経について</p> <p>第4回 錐体路と錐体外路について、麻痺とは</p> <p>第5回 感覚障害について</p> <p>第6回 失調症について（協調性の障害）</p> <p>第7回 ミオパチー疾患について</p> <p>第8回 ニューロパチー疾患について</p> <p>第9回 末梢神経損傷の回復過程について</p> <p>第10回 MS,ALS,絞扼ニューロパチーについて</p> <p>第11回 脳外科領域の疾患と脳血管障害①</p> <p>第12回 脳外科領域の疾患と脳血管障害②</p> <p>第13回 脳神経Ⅰ～Ⅵ解剖とその局所症状</p> <p>第14回 脳神経Ⅶ～Ⅻ解剖とその局所症状、自律神経の機能について</p> <p>第15回 中枢顔面神経の麻痺とその症状の理解、まとめ</p>	
履修上の注意	この授業は、神経系の障害を引き起こす原因（病因論）と障害を引き起こす症状、そして予後を学習する。サブノートは授業だけでなく、予習・復習へと利用すること。試験の範囲は教科書、サブノート、プリントから行い、授業の合間に確認試験を行う予定である	
成績評価	期末試験，小テストなどで総合的に評価する。 単位認定：笠井	
テキスト	参考図書，その他	
	<p>標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第3版 医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート第 2版 医歯薬出版株式会社</p>	

講義名	脳神経外科学
講師名	寺下 俊雄（実務家教員）
学年・期	2年後期，1単位，30時間（講義）
講義目標	脳神経外科学は、神経内科学と同様に中枢神経病変を中心とし、理学療法学とは密接な関係にある。この講義では理学療法学の脳血管等リハビリテーション分野を理解するために必要な脳神経外科学の知識と考え方を幅広く講義する。
授業計画	<p>第1回 脳神経外科学で何を学ぶか？リハビリテーションとの関係において</p> <p>第2回 脳の解剖 1 頭蓋含む</p> <p>第3回 脳の解剖 2</p> <p>第4回 画像診断法 1</p> <p>第5回 画像診断法 2</p> <p>第6回 脳に特異な症候</p> <p>第7回 脳卒中</p> <p>第8回 脳卒中の治療</p> <p>第9回 脳腫瘍</p> <p>第10回 頭部外傷</p> <p>第11回 先天奇形と水頭症</p> <p>第12回 脊髄、脊椎疾患</p> <p>第13回 機能的脳神経外科と末梢神経外科</p> <p>第14回 炎症性疾患と認知症</p> <p>第15回 錐体路と錐体外路</p>
履修上の注意	出席と復習を怠らずに。
成績評価	出席態様、小テスト（2回程度）、本試験を総合して評価する。単位認定者：寺下俊雄
テキスト	<p>標準脳神経外科学 監修:山浦 晶/田中 隆 一 医学書院</p>
参考図書、その他	<p>ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭 著 南山堂</p>

講義名	内科学
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	2年前期. 1単位. 30時間
講義目標	①内科学の重要な疾患について構造、生理、症候、病態生理を理解する。 ②各種疾患の基礎的な項目について、理学療法士として運動療法の実施やリスク管理上必要な知識を理解する。
授業計画	<p>第1回 内科学を学ぶ意義、内科学とは</p> <p>第2回 画像診断と治療</p> <p>第3回 画像診断と治療</p> <p>第4回 症候学</p> <p>第5回 症候学</p> <p>第6回 循環器疾患（基礎・症候と病態生理）</p> <p>第7回 循環器疾患（各論）</p> <p>第8回 循環器疾患（各論）</p> <p>第9回 循環器疾患（各論）</p> <p>第10回 呼吸器疾患（基礎・症候と病態生理）</p> <p>第11回 呼吸器疾患（各論）</p> <p>第12回 呼吸器疾患（各論）</p> <p>第13回 消化管疾患（基礎・症候と病態生理）</p> <p>第14回 消化管疾患（各論）</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	理学療法の対象疾患となる分野であり、国家試験にも出題される分野です。予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。
成績評価	小テスト・期末試験等から総合的に判断します。 単位認定者：石橋誠隆
テキスト	<p>標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 医学書院</p> <p>参考図書. その他 配布資料</p>

講義名	精神医学
講師名	鍵井 一浩（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	精神疾患を正しく理解し、患者を一人の人間として幅広くなおかつ奥深く捉えていく
授業計画	<p>第1回 精神医学とは 1) 定義 2) 精神医学の広がり</p> <p>第2回 精神障害に関わる概念 1) 正常と異常 2) 疾病と疾患 3) 精神医学の歴史</p> <p>第3回 精神障害の成因と分類</p> <p>第4回 精神機能の障害と精神症状 1) 精神疾患の把握 2) 性格と障害 3) 記憶とその障害 4) 自我意識と概念 5) 精神機能の障害と精神症状 1) 精神疾患の把握 2) 性格と障害 3) 記憶とその障害 4) 自我意識と概念 5)</p> <p>第5回 精神機能の障害と精神症状 1) 精神疾患の把握 2) 性格と障害 3) 記憶とその障害 4) 自我意識と概念 5)</p> <p>第6回 精神障害の診断と評価</p> <p>第7回 症状性精神障害</p> <p>第8回 精神作用物質による障害および行動の障害</p> <p>第9回 てんかん 統合失調症および行動の障害</p> <p>第10回 気分（感情）障害</p> <p>第11回 神経症性障害</p> <p>第12回 生理的障害および身体的要因に関連した障害</p> <p>第13回 成人の人格・行動・性の障害・精神異常</p> <p>第14回 エリソン精神医学・心身医学・ライフサイクルにおける精神医学</p> <p>第15回 精神障害の治療とリハビリテーション・精神科保健医療と福祉 職業リハビリテーション</p>
履修上の注意	実際の事例を通して意見を求める授業形式を行うので積極的に授業に参加してほしい
成績評価	授業態度、発言度合い、試験をもとに統合的に判断します
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院
	参考図書. その他

講義名	リハビリテーション医学
講師名	田島文博（実務家教員）
学年・期	3年前期 1単位 30時間
講義目標	「リハビリテーション」は医学用語ではなく、人間の生活を考える上での概念である。リハビリテーションの言葉の意味を理解することを第一目標とする。その上で、医学的リハビリテーションの中のリハビリテーション医学について理解を深める。リハビリテーション医学は、臓器別ではなく全人的にアプローチし、就職復帰や社会復帰を第一目標に掲げる臨床医学である。治療対象となる各種の障害を適切に診断し、具体的日糧計画を立案するリハビリテーション医学的な患者の見方を身につける。さらに、理学療法を实践する上で必要不可欠な知識を代表的な疾患・障害を通じて学ぶ。全ての講義を通じて、リハビリテーションは患者中心に実施されなくてはならないことを理解させる。
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの対象 肢体不自由、発達遅延、内部障害、精神障害、高齢者</p> <p>第2回 障害の概念 機能・形態障害、活動(能力障害)、参加(社会的不利)</p> <p>第3回 リハビリテーション医療の流れ 患者中心主義での医療展開と福祉</p> <p>第4回 リハビリテーションの組織 チーム医療の基本と職種間連携</p> <p>第5回 ADLとQOL ADL、IADL、APDL、QOL、FIM</p> <p>第6回 リハビリテーションにおける評価 形態測定、運動機能評価、生理維持機能評価、精神機能評価</p> <p>第7回 リハビリテーションの方法（各論Ⅰ） 中枢神経障害（脳血管障害）</p> <p>第8回 リハビリテーションの方法（各論Ⅱ） 中枢神経障害（脊髄損傷）</p> <p>第9回 リハビリテーションの方法（各論Ⅲ） 骨関節機能障害、末梢神経障害</p> <p>第10回 リハビリテーションの方法（各論Ⅳ） 高齢者・認知症（痴呆）、他</p> <p>第11回 地域・施設におけるリハビリテーション 社会資源、適応・共生、治療施設、訓練施設、生活施設</p> <p>第12回 福祉用具と補装具 福祉施策、給付手続き、対象、種類</p> <p>第13回 リハビリテーションとは 歴史、関連法規、各種リハビリテーション</p> <p>第14回 リハビリテーションの目的 全人的復権、自立生活、主体性の獲得、ノーマライゼーション</p> <p>第15回 試験</p>
履修上の注意	理学療法の知識・技術を学ぶ上での基礎となる授業です。今後の専門科目で行われる多くの課題学習や問題解決型学習のための出発点でもありますので、その準備として、少しの疑問でもあれば積極的に質問して解決していく姿勢をみにつけていきましょう。第1線で活躍中のリハビリテーション専門医を中心とした非常勤講師によるオムニバス方式での講義を実施します。講義予定は事前に配布しますので注意してください。
成績評価	期末試験・課題レポート・授業態度を総合的に判断する 再試験対象者の条件：本試験40点以上60点未満の者で出席授業態度に問題がないもの
テキスト	参考図書、その他
	<p>「最新リハビリテーション医学」米本恭三 他 医歯薬出版</p> <p>「リハビリテーション基礎医学第2版」 上田敏・千野直一・大川嗣雄 医学書院</p> <p>「リハビリテーション医療」平澤泰介・田 島文博 金芳堂</p>

講義名	老年医学
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	2年前期，1単位，30時間（講義）
講義目標	<p>超高齢社会を迎え、高齢者に対する理学療法的重要性が増しています。理学療法士が適切に高齢社会で活躍するためには、高齢者特有の心身機能の特徴や疾患について学ぶだけでなく、様々な視点から考える必要があります。本講義では次の5つを目標に学びます。</p> <p>①加齢と老化について理解する。②高齢者へのアプローチについて理解する。③高齢者に特徴的な症候と疾患について理解する。④高齢者を取り巻く環境について理解する。⑤高齢者の終末期医療について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 PT・OTと老年学のかかわり 加齢と老化①（老年病の考え方、生理機能）</p> <p>第2回 加齢と老化②（運動機能、精神心理面、性差医療）</p> <p>第3回 高齢者へのアプローチ①（定義、人口動態、接し方）</p> <p>第4回 高齢者へのアプローチ②（機能評価、薬物療法）</p> <p>第5回 高齢者に特徴的な症候と疾患①（老年症候群）</p> <p>第6回 高齢者に特徴的な症候と疾患②（循環器疾患、呼吸器疾患）</p> <p>第7回 高齢者に特徴的な症候と疾患③（消化器疾患）</p> <p>第8回 高齢者に特徴的な症候と疾患④ （骨・運動器疾患、神経疾患）</p> <p>第9回 高齢者に特徴的な症候と疾患⑤（精神疾患）</p> <p>第10回 認知症について</p> <p>第11回 高齢者に特徴的な症候と疾患⑥ 内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患）</p> <p>第12回 高齢者に特徴的な症候と疾患⑦（皮膚・口腔疾患、感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患、東洋医学）</p> <p>第13回 高齢者を取り巻く環境①（サジェラヒツク、社会学・経済学からみた高齢社会、医療、看護、介護・福祉、保健）</p> <p>第14回 高齢者を取り巻く環境②（リハビリテーション、退院支援）</p> <p>第15回 高齢者の終末期医療</p>
履修上の注意	<p>予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。また、実技も行いますので積極的に参加するようにしてください。</p>
成績評価	<p>小テスト・期末試験・課題などから総合して判断します。</p> <p>単位認定者：石橋 誠隆</p>
テキスト	<p>標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版 医学書院</p> <p>必要に応じてプリントを配布します。</p>
参考図書、その他	<p>必要に応じ適時紹介する</p>

講義名	小児科学	
講師名	吉益 哲（実務家教員）	
学年・期	2年前期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	小児疾患の基礎を理解する 小児における成長・発達について理解する 小児リハビリテーションの基礎について学ぶ	
授業計画	第1回 小児科学概論 第2回 診断と治療の概要 第3回 新生児・未熟児疾患 第4回 先天性異常と遺伝病 第5回 神経・筋・骨系疾患① 第6回 神経・筋・骨系疾患② 第7回 循環器疾患 第8回 呼吸器疾患 第9回 感染症 第10回 消化器疾患 第11回 内分泌・代謝疾患 第12回 血液疾患 第13回 免疫・アレルギー疾患, 膠原病 第14回 腎・泌尿器・生殖器疾患, 腫瘍性疾患 第15回 心身症・神経症など, 重症心身障害, 眼科・耳鼻科的疾患	
履修上の注意	特になし	
成績評価	期末試験他	単位認定者：吉益
テキスト	参考図書. その他	
	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 医学書院	

講義名	臨床心理学
講師名	吉田多恵（実務家教員）
学年・期	2年前期，1単位，30時間（講義）
講義目標	人間を理解し，また他者を支援する人としての自分自身を理解するため，そのひとつの視点として，臨床心理学のいくつかの側面を学ぶ．更に，他者と向き合う技法としてのカウンセリングマインドを学ぶ．
授業計画	<p>第1回 臨床心理学の歴史-フロイト，ユング等について-</p> <p>第2回 フロイト-心的構造論，精神分析などについて-</p> <p>第3回 生物としての人間-生得的行動，学習された行動-</p> <p>第4回 エリクソンの発達段階</p> <p>第5回 心理テストの成り立ち</p> <p>第6回 様々な心理テストについて</p> <p>第7回 ピアジュの発達段階-発達テストとともに-</p> <p>第8回 心理療法を学ぶ</p> <p>第9回 クライアント中心療法をメインとしたカウンセリングについて</p> <p>第10回 カウンセリングの応答技法について</p> <p>第11回 ロールプレイを含めたカウンセリングの実習①</p> <p>第12回 ロールプレイを含めたカウンセリングの実習②</p> <p>第13回 教科書に関連する発表会</p> <p>第14回 悲嘆反応への援助</p> <p>第15回 「臨床心理学と理学療法士」についての意見発表</p>
履修上の注意	特になし
成績評価	期末試験，提出物，発表等をもとに判断する．単位認定者：吉田
テキスト	参考図書，その他
	はじめての臨床心理学 北樹出版 必要に応じて配布する

講義名	臨床医学総論(医学総論)
講師名	笠井 正 (実務家教員)
学年・期	1年前期, 1単位, 30時間 (講義)
講義目標	医学をこころざす者にとって最も基本的な事柄を理解するために, 医学と関連する諸科学の事柄, たとえば, 生命とはなにか, 医学とはなにか, 医の倫理, 精神と身体, 医療と社会などについての知識を修得する。
シラバス	<p>第1回 ガイダンス、医療システムの理解①医療とコメディカルスタッフ</p> <p>第2回 医療システムの理解②医療に携わるスタッフ (名称独占と業務独占)</p> <p>第3回 医療システムの理解③ (医療システムとその問題点)</p> <p>第4回 リハビリテーション医療に関する医療システムの問題点 (ビデオより)</p> <p>第5回 救急救命の理論</p> <p>第6回 心肺蘇生法 評価 バイタルチェック</p> <p>第7回 心肺蘇生法 薬剤</p> <p>第8回 心肺蘇生法 実際</p> <p>第9回 生命倫理 脳死と臓器提供</p> <p>第10回 健康と医療について (サイボーグと再生医療) ビデオ</p> <p>第11回 医療が目指すもの, 医療サービスと医学診断、ゲノム解析</p> <p>第12回 診断のプロセス</p> <p>第13回 患者の権利, ターミナルケアの課題</p> <p>第14回 現代の問題点 (健康格差の構造)、テイラーメイド医療</p> <p>第15回 ジェネリック医薬品と医療費について</p>
履修上の注意	講義が中心になります。
成績評価	期末試験、出席状況。単位認定者：笠井 正
テキスト	<p>学生のための医療概論 医学書院</p> <p>医療入門 医学書院</p> <p>医学概論 医学書院</p>
参考図書, その他	

講義名	医学用語（医療・福祉分野）
講師名	前原 壮行
学年・期	2年前期. 1単位. 15時間（講義）
講義目標	社会福祉全般の内容を理解し、福祉の概念と基本的な考え方を学習する。
授業計画	第1回 現在社会と社会福祉 第2回 社会福祉の歴史と理念の発展 第3回 社会福祉の対象分野と福祉ニーズ 第4回 社会福祉援助活動の意義・組織・方法 第5回 社会福祉援助活動の担い手 第6回 社会福祉援助活動の担い手 第7回 生活保護制度 第8回 まとめ 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
履修上の注意	テキストを使用します。試験時に必要となるので、大切に保管してください。
成績評価	期末試験、出席状況を総合して判断する。単位認定者：前原
テキスト	参考図書. その他
	保護のてびき 第一法規

講義名	移乗動作学
講師名	亀井 貴史（実務家教員）
学年・期	2年後期，1単位，30時間（講義）
講義目標	本講義では、一般的な疾患・障害モデルに対して、移乗動作の理解と実践を中心に実技を交えて学習する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 移乗動作とは</p> <p>第2回 移乗関連機器について</p> <p>第3回 自力による移乗動作1 寝返り 起き上がりの動作</p> <p>第4回 自力による移乗動作2 基本動作 座位 立ち上がり 移乗</p> <p>第5回 自力による移乗動作3 脳卒中片麻痺の基本動作</p> <p>第6回 自力による移乗動作4 実習</p> <p>第7回 実技テスト</p> <p>第8回 介助による移乗動作1 ポジショニング</p> <p>第9回 介助による移乗動作2 脳卒中片麻痺の基本動作</p> <p>第10回 介助による移乗動作3 障害別での移乗</p> <p>第11回 介助による移乗動作4 実習</p> <p>第12回 介助による移乗動作5 実習</p> <p>第13回 実技テスト</p> <p>第14回 実技テスト</p> <p>第15回 復習・まとめ</p>
履修上の注意	実技テスト時にジャージが必要
成績評価	実技テスト、定期試験から総合的に評価する。
テキスト	参考図書，その他
	特に指定しない 松澤 正，他：移動補助具，金原出版株式会社

講義名	公衆衛生学
講師名	鈴木 春満
学年・期	3年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子について学ぶ。 2. 疫学の方法論について学ぶ。 3. 疾病予防のありかたについて学ぶ。 4. 地域や学校における公衆衛生活動について学ぶ。 5. 産業保健の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 公衆衛生学序論</p> <p>第2回 保健統計</p> <p>第3回 疫学</p> <p>第4回 疾病予防と健康管理</p> <p>第5回 様々な疾患の予防</p> <p>第6回 環境保健（1）</p> <p>第7回 環境保健（2）</p> <p>第8回 地域保健と保健行政</p> <p>第9回 老人保健・福祉</p> <p>第10回 学校保健</p> <p>第11回 母子保健</p> <p>第12回 精神保健</p> <p>第13回 産業保健（1）</p> <p>第14回 産業保健（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>日頃から新聞・雑誌・書籍等を読み、公衆衛生に関する見聞を広めましょう。</p> <p>その他の注意事項は、講義中に説明します。</p>
成績評価	<p>試験により評価します。</p> <p>なお、授業態度、課題提出状況なども考慮する場合があります。</p>
テキスト	<p>「シンプル衛生公衆衛生学2019」 （南江堂）</p>
参考図書、その他	<p>「国民衛生の動向」「図説 国民衛生の動向」 「国民の福祉の動向」（財団法人 厚生統計協会）</p>

講義名	トータルヘルスプロモーション（健康科学）
講師名	中 俊博
学年・期	2年前期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションの基礎を理解する. 2. 自分の健康を自分で管理, 改善することを学習する. 3. 運動による体力育成, 健康法について実践を通して学習する.
授業計画	<p>第1回 寝たきり長寿から健康長寿へ</p> <p>第2回 体力づくりの変遷：体操による体力・健康育成の時期</p> <p>第3回 ヘルスプロモーション</p> <p>第4回 自己の体力の評価とMETS（メッツ）</p> <p>第5回 ウォークラリー（キャンパスコース）【実習】</p> <p>第6回 テーマ「運動と寿命」から【レポート】</p> <p>第7回 有酸素運動（エアロビクス）</p> <p>第8回 筋力トレーニング【実習】</p> <p>第9回 スポーツマッサージの効用【実習 施術群と非施術群の比較】</p> <p>第10回 レクリエーション・サロン【軽スポーツの体験】</p> <p>第11回 高齢者の筋トレ・脳トレ</p> <p>第12回 ロコモティブシンドローム・下肢筋力簡便測定法</p> <p>第13回 自己の健康法について1【マインドマップ】色鉛筆必要</p> <p>第14回 資格習得のクイズに挑戦</p> <p>第15回 自己の健康管理法【レポート】</p>
履修上の注意	実習時は運動の行いやすい服装にする.
成績評価	出席状況とレポートを総合して判断する. 単位認定者：中
テキスト	参考図書. その他
	適時プリント配布

講義名	栄養・薬理学①
講師名	雑賀 史浩
学年・期	3年前期, 1単位, 30時間(講義)
講義目標	授業目標は、薬剤の目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することである。具体的には、薬剤の使用目的については、疾患の原因を取り除く原因療法、体内に欠乏する物質を補う補充療法等について学習する。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。
授業計画	<p>第1回 総論 I - 薬理学の概要と創薬の実際、薬力学、薬物動態学</p> <p>第2回 末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬</p> <p>第3回 循環器(心臓・血管)系作用薬</p> <p>第4回 内分泌・代謝系作用薬</p> <p>第5回 呼吸器系・消化器系作用薬</p> <p>第6回 血液造血系作用薬</p> <p>第7回 抗炎症薬、免疫系作用薬、化学療法(抗癌薬)</p>
履修上の注意	配布資料と教科書を用い、パワーポイントによる講義形式。レポートを課す。
成績評価	定期試験(筆記)(70%)、レポート・小テスト(30%)
テキスト	参考図書, その他
	<p>野村隆英・石川直久編集「シンプル薬理学」南江堂</p> <p>吉岡亮 他著「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学」医学書院</p> <p>医療情報科学研究所編「薬が見える」vol.1,2 & 3 メディックメディア</p>

講義名	栄養・薬理学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年前期、1単位、30時間（講義）
講義目標	高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養状態を整える必要がある。栄養学では医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を習得することを目標とする。授業内容は、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養ケアマネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについてを学習する。
授業計画	<p>第8回 栄養学とは</p> <p>第9回 栄養状態の評価・判定</p> <p>第10回 三大栄養素の種類と代謝</p> <p>第11回 ビタミンやミネラルの種類とはたらき</p> <p>第12回 エネルギー代謝</p> <p>第13回 栄養素の体内代謝</p> <p>第14回 ライフサイクルと栄養、栄養素の消化・吸収</p> <p>第15回 栄養ケアマネジメント、まとめ</p>
履修上の注意	PowerPointを用いて講義形式で行う。毎講義後に小テストを行う。
成績評価	定期試験（80％）、小テスト（20％）
テキスト	参考図書、その他
	<p>小野章史、杉山みち子、鈴木志保子、外山健二、中村丁次「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学」医学書院</p> <p>なし</p>

講義名	予防医学
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	3年（後期）. 30時間（講義）
講義目標	健康寿命を延伸するには、病気を治療することに加えて、病気にかからないための方略、すなわち予防が必要である。理学療法分野においても障害の治癒や受容を促すもの、さらには疾病や老年症候群の予防など多岐にわたる。本講義では、①予防医学概説、②予防医学のための理解、③予防医学の実際について学びます。
シラバス	<p>第1回 予防医学概説（1） 定義と領域（1次予防、2次予防、3次予防）</p> <p>第2回 予防医学概説（2） 諸制度と研究</p> <p>第3回 予防医学のための理解（1） 栄養学、スポーツ、コミュニケーション</p> <p>第4回 予防医学のための理解（2） 発達から老化、学童期と運動器検診</p> <p>第5回 予防医学の実際（1） PTの役割、メタボ対策、ロコモ対策</p> <p>第6回 予防医学の実際（2） 廃用症候群（サルコペニア、フレイル、転倒、低栄養）</p> <p>第7回 予防医学の実際（3） 廃用症候群（口腔・嚥下機能低下、呼吸機能低下）</p> <p>第8回 予防医学の実際（4） 廃用症候群（心血管機能低下、抑うつ、骨盤底機能低下）</p> <p>第9回 予防医学の実際（5） 認知症</p> <p>第10回 予防医学の実際（6） 労働災害</p> <p>第11回 予防医学の実際（7） 再発予防（脳卒中、心疾患、呼吸器疾患）</p> <p>第12回 予防医学の実際（8） 再発予防（整形外科疾患）、スポーツを利用した予防</p> <p>第13回 予防医学の実際（9） メンタルヘルス、ウィメンズヘルス・メンズヘルス</p> <p>第14回 予防医学の実際（10） ヘルスコミュニケーション、住民主体の予防</p> <p>第15回 予防医学の実際（11） 地域づくりによる介護予防、セーフティプロモーション</p>
履修上の注意	テキストと配布資料を使った講義となります。 予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。
成績評価	学期末試験（60%）、小テスト（20%）、授業内課題（10%）、提出物（10%）などより総合的に判断して成績評価を行う。 単位認定者：石橋誠隆
テキスト	<p>予防医学要論 監修：大淵修一、浦部幸夫 （医歯薬出版）</p> <p>参考図書、その他 配布資料を適時配布。</p>

講義名	社会福祉学
講師名	西田 紀子（実務家教員）
学年・期	1年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	社会福祉施策の概要を知る 社会福祉援助技術を学ぶ
授業計画	<p>第1回 社会福祉とは</p> <p>第2回 社会福祉の歴史</p> <p>第3回 介護保険①</p> <p>第4回 介護保険②</p> <p>第5回 自立支援 生活保護の基本原則 憲法第25条</p> <p>第6回 自立支援 国からの給付</p> <p>第7回 自立支援 介護福祉分野1（身体機能等）</p> <p>第8回 自立支援 介護福祉分野2（認知症等）</p> <p>第9回 就労支援 社会的弱者支援</p> <p>第10回 就労支援 障害者支援</p> <p>第11回 就労支援 その他</p> <p>第12回 社会福祉援助技術①</p> <p>第13回 社会福祉援助技術②</p> <p>第14回 認知症ケア</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	グループ演習も行います
成績評価	出席状況、グループ演習への参加状況を含めて総合的に判断します。 筆記試験も行います。 単位認定者：西田紀子
テキスト	参考図書. その他
	特に指定しない

講義名	リハビリテーション概論
講師名	松井有史（実務家教員）
学年・期	1年前期、2単位、60時間（講義）
講義目標	リハビリテーションの基礎を理解する 障害学の基礎・種類を理解する 医学的・社会的アプローチの基礎を理解する 社会保障制度、法制度について学ぶ
シラバス	<p>第1回 リハビリテーション概論 総論 1</p> <p>第2回 リハビリテーション概論 総論 2</p> <p>第3回 リハビリテーションの領域・スタッフ・過程について</p> <p>第4回 障害学の基礎知識について</p> <p>第5回 障害分類 I C I D H から I C F</p> <p>第6回 医学的リハビリテーションとは</p> <p>第7回 P T ・ O T ・ S T ・ P O リハビリテーション職種について</p> <p>第8回 社会的リハビリテーションとは</p> <p>第9回 地域リハビリテーションとは</p> <p>第10回 職業・教育・施設リハビリテーション</p> <p>第11回 社会保障制度</p> <p>第12回 リハビリテーションチーム医療</p> <p>第13回 人間活動 1</p> <p>第14回 人間活動 2</p> <p>第15回 機能障害をもたらす主な疾病と外傷 身体障害</p>
履修上の注意	講義が中心の授業となります。
成績評価	期末試験、小テスト、提出物、出席状況を総合して判断する。単位認定者：松井
テキスト	参考図書、その他
	入門 リハビリテーション概論 医歯薬出版

講義名	リハビリテーション概論
講師名	松井有史（実務家教員）
学年・期	1年前期、2単位、60時間（講義）
講義目標	リハビリテーションの基礎を理解する 障害学の基礎・種類を理解する 医学的・社会的アプローチの基礎を理解する 社会保障制度、法制度について学ぶ
シラバス	<p>第16回 機能障害をもたらす主な疾病と外傷 身体障害</p> <p>第17回 機能障害をもたらす主な疾病と外傷 内部障害</p> <p>第18回 機能障害をもたらす主な疾病と外傷 精神障害</p> <p>第19回 リハビリテーションの課程 1</p> <p>第20回 リハビリテーションの課程 2</p> <p>第21回 地域包括ケアシステムとは</p> <p>第22回 地域包括ケアシステムの成り立ちと課程</p> <p>第23回 地域包括ケアシステムの例</p> <p>第24回 リハビリテーションに関する法制度①</p> <p>第25回 リハビリテーションに関する法制度②</p> <p>第26回 リハビリテーションに関する法制度③</p> <p>第27回 多職種連携方法① 基礎的な考え方</p> <p>第28回 多職種連携方法② 応用</p> <p>第29回 多職種連携方法③ 応用</p> <p>第30回 まとめ・復習</p>
履修上の注意	講義が中心の授業となります。
成績評価	期末試験、小テスト、提出物、出席状況を総合して判断する。単位認定者：松井
テキスト	参考図書、その他
	入門 リハビリテーション概論 医歯薬出版

講義名	医療関連法規
講師名	前原 壮行
学年・期	1年後期, 1単位, 15時間(講義)
講義目標	医療関連法規で、医療と福祉の連携が重要視される中で、基礎的な福祉への理解と、障がい者自立支援法から障がい者総合支援法について学びます。また、和歌山県下における状況も把握する。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> <p>第1回 社会保障の定義と国家予算について(消費税と社会保障の一体改革)</p> <p>第2回 福祉全般について</p> <p>第3回 課外授業</p> <p>第4回 「福祉」って何だろう。「福祉」のひろがりと課題について</p> <p>第5回 障がい者とは、和歌山県内の身体・知的・精神障がい者</p> <p>第6回 障害者自立支援法から障害者総合支援法1</p> <p>第7回 障害者自立支援法から障害者総合支援法2</p> <p>第8回 障害者自立支援法から障害者総合支援法の課題</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>
履修上の注意	予習復習を行うように
成績評価	単位認定者：前原壮行
テキスト	参考図書, その他
	特に指定なし
	初めての福祉(配布します)

講義名	理学療法学概論Ⅰ
講師名	河西紀秀（実務家教員）
学年・期	1年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	教科書を基本とし、理学療法学や理学療法士に対する興味を向上させる。
シラバス	<p>第1回 ガイダンス（はじめに）</p> <p>第2回 理学療法の定義</p> <p>第3回 リハビリテーションとハビリテーション</p> <p>第4回 リハビリテーションの分野について</p> <p>第5回 PT・OT法における理学療法（1）</p> <p>第6回 PT・OT法における理学療法（2）</p> <p>第7回 職域と労働対価</p> <p>第8回 職能団体と協働職種</p> <p>第9回 理学療法士の卒前・卒後教育</p> <p>第10回 世界理学療法連盟</p> <p>第11回 アメリカの理学療法</p> <p>第12回 各国の理学療法</p> <p>第13回 再考：日本の理学療法の課題</p> <p>第14回 これまでの振り返り</p> <p>第15回 中間確認試験</p>
履修上の注意	授業は講義を中心にグループディスカッションなども行います。積極的に授業参加して下さい。
成績評価	中間試験および定期試験、課題などを総合して判断する。 単位認定者：河西紀秀
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト理学療法概論 第1版羊土社</p> <p>参考図書. その他</p> <p>講義中の配布プリント 標準理学療法学理学療法学概説 医学書院 理学療法学概論 第4版 神陵文庫</p>

講義名	理学療法学概論Ⅰ
講師名	河西紀秀（実務家教員）
学年・期	1年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	教科書を基本とし、理学療法学や理学療法士に対する興味を向上させる。
シラバス	<p>第16回 国際疾病分類（ICD）と国際障害分類（ICIDH）①</p> <p>第17回 国際疾病分類（ICD）と国際障害分類（ICIDH）②</p> <p>第18回 国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第19回 理学療法評価①</p> <p>第20回 理学療法評価②</p> <p>第21回 理学療法評価③</p> <p>第22回 理学療法における治療①</p> <p>第23回 理学療法における治療②</p> <p>第24回 理学療法士に求められる要素①</p> <p>第25回 理学療法士に求められる要素②</p> <p>第26回 理学療法士としての志</p> <p>第27回 障害受容と幸福</p> <p>第28回 これまでの振り返り</p> <p>第29回 理学療法士国家試験</p> <p>第30回 まとめ</p>
履修上の注意	授業は講義を中心にグループディスカッションなども行います。積極的に授業参加して下さい。
成績評価	中間試験および定期試験、課題などを総合して判断する。 単位認定者：河西紀秀
テキスト	<p>PT・OTビジュアルテキスト理学療法概論 第1版 羊土社</p> <p>参考図書. その他</p> <p>講義中の配布プリント 理学療法学概論 第4版 神陵文庫 標準理学療法学理学療法学概説 医学書院</p>

講義名	理学療法概論Ⅱ（作業療法概論）
講師名	丹葉 寛之（実務家教員）
学年・期	1年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	①作業の意味と作業療法の定義を説明することができる。 ②作業療法と理学療法の共通点、相違点を説明することができる。 ③作業療法の実践プロセスを理解することができる。
授業計画	<p>第1回 作業とは、作業療法とは何か（作業療法の定義）</p> <p>第2回 作業療法の歴史と作業療法</p> <p>第3回 作業療法の領域</p> <p>第4回 作業療法の理論（ICFモデル）</p> <p>第5回 作業療法の実践過程</p> <p>第6回 作業療法の実際① 身体障害領域の作業療法</p> <p>第7回 作業療法の実際② 身体障害領域の作業療法</p> <p>第8回 作業療法の実際④ 精神障害領域における作業療法</p> <p>第9回 作業療法の実際⑤ 発達障害領域における作業療法</p> <p>第10回 作業療法の実際⑥ 発達障害領域における作業療法</p> <p>第11回 作業療法の実際⑦ 老年期領域における作業療法</p> <p>第12回 作業療法の実際⑧ 環境調整について（自助具など）</p> <p>第13回 作業分析と作業体験①</p> <p>第14回 作業分析と作業体験②</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	予習復習を行うように
成績評価	<p>期末試験・出席状況・講義態度を総合して判断します。</p> <p>単位認定者：丹葉寛之</p>
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>資料を配布します</p>

講義名	理学療法概論Ⅲ（言語聴覚療法概論）
講師名	山崎 良一（実務家教員）
学年・期	2年前期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	コミュニケーション障害, 嚥下障害の種類とその対応
授業計画	<p>第1回 概論, 言語聴覚療法とは</p> <p>第2回 ことばの仕組み</p> <p>第3回 聞こえの仕組み</p> <p>第4回 嚥下の仕組み</p> <p>第5回 失語と脳</p> <p>第6回 失語症① 症状とメカニズム</p> <p>第7回 失語症② 接し方</p> <p>第8回 構音障害① 症状とメカニズム</p> <p>第9回 構音障害② 接し方</p> <p>第10回 嚥下障害</p> <p>第11回 言語発達遅滞</p> <p>第12回 聴覚障害</p> <p>第13回 高次脳機能障害</p> <p>第14回 検査</p> <p>第15回 関係法規とまとめ</p>
履修上の注意	特になし
成績評価	期末試験, 提出物, 出席状況を総合して判断する. 単位認定者: 山崎
テキスト	参考図書. その他
	絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで gakken

講義名	理学療法研究法	
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）、松井 有史（実務家教員）	
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	①理学療法研究の意義について理解する。 ②理学療法研究の計画について理解する。 ③理学療法研究の実際について理解する。 ④医療統計について理解する。 ⑤学会発表や論文執筆について理解する。	
授業計画	第1回 なぜ、研究をするのか？ 総論（研究とは） 第2回 どんな研究ができるの？ 理学療法研究の展開 計画をたてよう！ 第3回 研究計画① ”信頼性” ”妥当性” はありますか？ 第4回 研究計画② 予行練習と見直し 第5回 研究計画③ 第6回 基礎研究① 組織や細胞にかかわる研究 第7回 基礎研究② 生化学、生理学の研究 第8回 臨床研究①（動作解析・筋電図・脳研究） 第9回 臨床研究②（ランダム化比較試験・症例研究） 第10回 臨床研究③（呼吸・循環・代謝） 第11回 臨床研究④（質問紙・疫学） 第12回 医療統計 第13回 発表・論文作成 第14回 臨床研究⑤（システムティックレビュー・メタアナリシス） 第15回 まとめ	石橋 石橋 石橋 石橋 石橋 松井 松井 松井 松井 石橋 松井 石橋 石橋 松井 松井 石橋 石橋
履修上の注意	卒業研究や卒後研究を行う上で基礎となるのでしっかりと学んでください。また、国家試験の出題範囲でもあるのでしっかりと学んでください。予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。	
成績評価	課題提出状況・確認テスト・定期試験など総合的に判断します。 単位認定者：松井有史、石橋誠隆	
テキスト	参考図書. その他	
	適宜プリントを配布する	理学療法研究の進め方 文光堂 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第2版

講義名	臨床リハビリテーションの実際（障害福祉分野）（通年）
講師名	前原壮行
学年・期	3年前期（通年） 1/3単位 30/90時間（講義）
講義目標	障害とは何かという問題はたいへん難しい。 その中で障害福祉全般の内容を理解し、障害者福祉サービスや人権等について学習することで障害者への正しい認識と福祉の観点から理解を深める。
授業計画	<p>第1回 現在社会における障害者問題と障害者福祉</p> <p>第2回 障害者の概念・実態</p> <p>第3回 障害者福祉の理念</p> <p>第4回 障害者福祉の歴史</p> <p>第5回 障害の早期発見と保育と療育</p> <p>第6回 障害のある子どもの教育と福祉</p> <p>第7回 身体障害者の福祉</p> <p>第8回 知的障害者の福祉</p> <p>第9回 精神障害者の福祉</p> <p>第10回 障害者の保健・医療、所得保障</p> <p>第11回 障害者の雇用・就労</p> <p>第12回 障害自立支援法1</p> <p>第13回 障害自立支援法2</p> <p>第14回 障害者総合支援法</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	講義内で施設見学あり
成績評価	定期試験と出席状況を勘案して判断します。
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>新版 社会福祉士養成講座3 障害者福祉論 中央法規</p>

講義名	臨床リハビリテーションの実際（脊損リハビリテーション分野）
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年） 1/3単位 30/90時間（講義）
講義目標	<p>①脊髄の解剖と機能について理解し、具体的に述べる事ができる。 ②脊髄損傷の病態や合併症などを理解し、具体的に述べる事が出来る。 ③脊髄損傷の評価について理解し、具体的に述べる事ができる。 ④脊髄損傷の治療・リハビリテーションについて理解し具体的に述べる事ができる。 ⑤ADL・QOLの観点から社会復帰について理解し、具体的に述べる事が出来る。</p>
授業計画	<p>第1回 脊髄損傷では何が起こる？ （解剖・機能、病態生理） 第2回 タイプが違つと中身が違つ！？ 脊髄損傷の各損傷タイプ、自律神経障害 第3回 排泄ができないと… 脊髄損傷の排尿・排便障害 第4回 合併症に気をつけろ！ 脊髄損傷の合併症について 第5回 脊髄損傷の評価① ～情報が命～ （情報収集、各種評価） 第6回 脊髄損傷の評価② ～いろいろな評価がある～ （各種評価） 第7回 脊髄損傷の評価③ ～代表的な分類と基準を覚えろ！～ （ASIA、Zancolliniなど） 第8回 特徴的な呼吸・呼吸方法をする 脊髄損傷の呼吸障害 第9回 命が最優先事項！ 脊髄損傷のリハビリテーション①急性期 第10回 機能を取り戻す！ 脊髄損傷のリハビリテーション②回復期 第11回 動作を再獲得！ 脊髄損傷のリハビリテーション③基本動作・移乗動作 第12回 生活を広げる動作を獲得！ 脊髄損傷のリハビリテーション④移動動作 第13回 日常生活をしやすくする！ 脊髄損傷のリハビリテーション⑤ADL 第14回 脊損とともに生きる。 脊髄損傷のリハビリテーション⑥生活期 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>国家試験にも多く出題される範囲になります。 予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。</p>
成績評価	<p>期末試験・授業毎の確認テスト・課題提出状況を総合して判断します。 単位認定者：石橋 誠隆</p>
テキスト	<p>脊髄損傷理学療法マニュアル第2版 文光堂</p>
	<p>参考図書、その他</p>

講義名	臨床リハビリテーションの実際（装具療法分野）
講師名	木下 利喜生（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/3単位. 15時間（講義）
講義目標	装具療法とは、疾患部の関節などを固定・支持するものを装着して機能を改善・疼痛を取り除いたりしながら日常生活を送る為、治療に重要な役割を担っている。装具の使用方法によっては、悪化する恐れがある。本講義では正しい装具使用方法・適応を理解し学んでいく。
授業計画	第1回 県下における装具療法の現状 第2回 県下における装具療法の現状2 第3回 短下肢装具の実際 第4回 短下肢装具の実際2 第5回 外側ウェッジと臨床での使用方法 第6回 外側ウェッジと臨床での使用方法2 第7回 装具療法の実際とフィットネス 第8回 装具療法の実際とフィットネス2 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
履修上の注意	装具、特に脳卒中に適応する短下肢装具や長下肢装具については事前に理解しておくこと。
成績評価	定期試験により判定する
テキスト	参考図書. その他
	特に指定なし
	授業中プリントを配布します

講義名	臨床リハビリテーションの実際（内部障害）
講師名	森本 信三（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/3単位. 15時間（講義）
講義目標	本講義は、生活習慣病を中心とした内部疾患に対してのアプローチ方法や知識の学修の体得を目標とする。昨今の日本では生活習慣病は大きな課題であり、健康維持のためにも理学療法でできることを探求し、知識・技術を得るための講義である。
授業計画	第1回 生活習慣病、糖尿病とは 第2回 医学的評価、薬物療法 第3回 糖尿病合併症、リスク管理 第4回 食事療法 第5回 運動療法 第6回 他疾患 + 運動療法 第7回 理学療法 第8回 行動変容、グループワーク、産業理学療法 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回
履修上の注意	今までに学習した「生活習慣病」について復習すること
成績評価	定期試験より判定する
テキスト	参考図書. その他
	特に指定なし
	授業中プリントを配布します

講義名	理学療法管理学
講師名	中村 昌司（実務家教員）
学年・期	2年後期（金4）. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	医療機関および介護事業所を取り巻く経営環境は社会保障制度全般における見直しが進む中、厳しさを増している。特に病院経営は医療経済政策誘導により効率的かつ質の高い医療提供が求められている。また、機能分化策の推進により各医療機関および介護事業所が取るべき戦略は多様化している。本講では、医療・介護の今日の問題を理解すると同時に、特にリハビリテーション分野における経済（経営も含めた）、管理という観点から、必要な知識を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 講義のガイダンス</p> <p>第2回 なぜ今医療経済（経営）の知識が求められるか</p> <p>第3回 社会保障制度概略と医療の位置づけ</p> <p>第4回 近年の医療制度改革の動向</p> <p>第5回 医療・福祉事業経営のしくみ</p> <p>第6回 診療報酬制度について</p> <p>第7回 診療報酬 リハビリテーション料について</p> <p>第8回 診療報酬 リハビリテーション料について 2</p> <p>第9回 診療報酬 回復期リハビリテーション病棟入院料等について</p> <p>第10回 医療の質に基づく支払い方式（P4P）</p> <p>第11回 地域医療連携について</p> <p>第12回 リスク管理について①</p> <p>第13回 リスク管理について②</p> <p>第14回 リスク管理について③</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	講義の進行はシラバスと異なる場合もあります。教室内外を問わず、積極的な質問や要望は大歓迎です。但し、講義中の私語は特に謹んで下さい。お互いに授業を盛上げるよう努力しましょう。
成績評価	[定期試験] 70%（授業全般にわたっての理解を試験により確認する。） [受講態度] 30% 単位認定者：中村昌司
テキスト	参考図書. その他
印刷物配布	<p>西村周三他『医療経済学の基礎理論と論点』（頸草書房 2006）</p> <p>国際医療福祉大学医療経営管理学科編『医療・福祉経営管理入門四訂版』（国際医療福祉大学出版会 2004）</p> <p>武藤正樹『よくわかる病院の仕事のしくみ』（ばる出版2007）尾形裕也『看護管理者のための医療経営学』（日本看護協会出版会2009）ほか</p>

講義名	組織学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年後期，1単位，30時間（講義）
講義目標	理学療法部門の組織学、及び理学療法士としての人材像を理解することを目的とする。具体的には、理学療法部門の人事・予算・物品・部門開設などの管理運営に関する事項について学習し、また、臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について、日本理学療法士協会の倫理規定などに沿って学習する。
授業計画	<p>第1回 理学療法における倫理 守秘義務、個人情報保護、インフォームドコンセント キーワード：理学療法、守秘義務、個人情報保護、インフォームドコンセント</p> <p>第2回 理学療法における倫理（守秘義務、個人情報保護）</p> <p>第3回 理学療法における倫理（インフォームドコンセント）</p> <p>第4回 理学療法における倫理（診療録への記載と保存義務）</p> <p>第5回 理学療法における倫理（情報開示）</p> <p>第6回 理学療法における倫理（安全確保など）</p> <p>第7回 理学療法における倫理（ハラスメント）</p> <p>第8回 理学療法における倫理（守るべきモラルとマナー）</p> <p>第9回 理学療法における管理 法則、医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハット（インシ） キーワード：ハインリッヒの法則、医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハット（インシ）</p> <p>第10回 理学療法における組織（質の管理）</p> <p>第11回 理学療法における組織（運営管理）</p> <p>第12回 理学療法における組織（業務管理）</p> <p>第13回 理学療法における組織（労務管理）</p> <p>第14回 理学療法における組織（人材育成）</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	上記の「キーワード」について調べ、自分自身の意見を他者にわかりやすく伝えられるようにしておくこと。
成績評価	受講態度(20%)，レポート課題(80%)で判断する
テキスト	<p>テキスト：理学療法士ガイドライン、職業倫理ガイドライン（日本理学療法士協会）日本理学療法士協会のホームページより、「協会について」→「定款・規定」→「業務」をクリックすると、PDF版がダウンロードできます。</p> <p>参考図書，その他 理学療法管理学 南江堂</p>

講義名	理学療法評価法	
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）	
学年・期	1年後期, 1単位, 30時間（講義）	
講義目標	①理学療法評価の意義・目的を理解する。 ②理学療法評価の手順を理解する。 ③理学療法評価とICIDH・ICFを理解する。 ④理学療法評価の各種について理解する。	
授業計画	第1回 評価とは？ 総論（意義・目的・種類・時期・留意点） 第2回 目指せプロの目！～慎重さも忘れずに～ 評価の過程・トップダウン・ボトムアップ 第3回 あなたの生活を知りたい！ 理学療法評価の対象（障害把握・ICIDHとICF） 第4回 記録はしっかりと残そう！ 評価記録①（条件・内容・方法） 第5回 カルテはこうやって書く！ 評価記録②（SOAP法の実際） 第6回 情報はいろいろな場所に転がっている！ 一般的評価事項①（医療情報・現症・観察・検査・測定） 第7回 信頼を勝ち取れ！情報を聞き出せ!! 一般的評価事項②（問診・医療面接の心得・方法・実際） 第8回 いのち大切に！身体データの収集！ 各種評価①（バイタルサイン・形態測定・関節可動域検査） 第9回 P・R・S! 各種評価②（筋力検査・反射検査・感覚検査） 第10回 痛み＝危険シグナル？ 各種評価③（疼痛と疼痛検査） 第11回 瞬きする暇はない！イメージを止めるな!! 各種評価④（動作観察と分析） 第12回 その身体、震えてますよ… 各種評価⑤（協調性検査・筋緊張検査・整形外科的検査） 第13回 司令塔に何が… 各種評価⑥（片麻痺機能検査、高次脳機能検査） 第14回 Think! 頭と身体をトップギアだ!! 統合と解釈、問題点の抽出 第15回 評価に始まり評価に終わる。これがPTの仕事だ! これまでの授業のまとめ	
履修上の注意	理学療法にとって重要な評価について基礎の講義となります。 予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。	
成績評価	学期末試験（%）、小テスト（%）、提出物（%）などより総合的に判断して成績評価を行う。 単位認定者：石橋誠隆	
テキスト	鈴木俊明他：臨床理学療法評価法第2版 株式会社アイパック	
参考図書、その他	松澤正ほか：理学療法評価学改訂第6版 金原出版株式会社 内山靖ほか：標準理学療法学 理学療法評価学第3版 医学書院	

講義名	障害別理学療法評価法
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	理学療法評価のプロセスを理解し、理学療法を展開するために必要な検査・測定技術を習得することを目的とする。特に本講義では、検査・測定の目的とその評価するために、整形外科的検査を理解し、実技も習得していただきたい。
授業計画	<p>第1回 整形外科検査方法 概論（問診・視診・触診）</p> <p>第2回 頸椎部・胸郭部の検査</p> <p>第3回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査</p> <p>第4回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査のデモンストレーション</p> <p>第5回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査のデモンストレーション</p> <p>第6回 実技（触診・脈拍）上肢・下肢・体幹</p> <p>第7回 体幹・上肢の検査（肩関節・姿勢・肢位）</p> <p>第8回 上肢の検査（肘）</p> <p>第9回 上肢・下肢の検査（手・股関節）</p> <p>第10回 下肢の検査（股関節）</p> <p>第11回 下肢の検査（膝関節とその周囲）</p> <p>第12回 下肢の検査（膝関節とその周囲）</p> <p>第13回 下肢の検査（足関節とその周囲）・体幹の検査（髄膜刺激症状も含む）</p> <p>第14回 上肢・下肢・体幹の検査デモンストレーション</p> <p>第15回 上肢・下肢・体幹の検査デモンストレーション まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では、運動可能な服装を用意してください。
成績評価	定期試験により判断する。単位認定者：笠井 正
テキスト	参考図書. その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイベック

講義名	理学療法評価法実習Ⅰ
講師名	中前 匡輝（実務家教員）
学年・期	2年前期，2単位，60時間（A+B講義）
講義目標	理学療法評価に必要な評価技術として、関節可動域検査（ROM）と徒手筋力検査（MMT）を理解し、実技の中では理学療法士として必要な「身体機能」について理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 理学療法評価総論、関節可動域総論</p> <p>第2回 関節可動域検査（上肢測定：肩）</p> <p>第3回 関節可動域検査（上肢測定：肘、前腕、手）</p> <p>第4回 関節可動域検査（下肢測定：股、膝、足、足部）</p> <p>第5回 関節可動域検査（肩甲帯、母指、指、頸部、胸腰部）</p> <p>第6回 関節可動域検査（顎関節検査法など、まとめ、小テスト）</p> <p>第7回 生理学：痛みのメカニズム</p> <p>第8回 痛みの評価、動作分析から可動域を予測する</p> <p>第9回 形態測定 四肢長（実技）</p> <p>第10回 形態測定 周径（実技）</p> <p>第11回 リスク管理総論：バイタルサイン</p> <p>第12回 バイタルサイン実技</p> <p>第13回 実習対策Ⅰ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p> <p>第14回 実習対策Ⅱ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p> <p>第15回 実習対策Ⅲ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p>
履修上の注意	実技が中心の講義になります。運動可能な服装で参加してください。
成績評価	期末試験、実技試験。単位認定者：中前匡揮
テキスト	参考図書、その他
	臨床理学療法評価法 第2版 IPEC 監修：鈴木俊明

講義名	理学療法評価法実習Ⅰ
講師名	河西 紀秀（実務家教員）
学年・期	2年前期. 2単位. 60時間（A+B講義）
講義目標	理学療法評価に必要な評価技術として、関節可動域検査（ROM）と徒手筋力検査（MMT）を理解し、実技の中では理学療法士として必要な「身体機能」について理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 徒手筋力テストの原理、下肢の筋力テスト1</p> <p>第2回 下肢の筋力テスト2</p> <p>第3回 下肢の筋力テスト3</p> <p>第4回 下肢の筋力テスト4</p> <p>第5回 上肢の筋力テスト1</p> <p>第6回 上肢の筋力テスト2</p> <p>第7回 上肢の筋力テスト3</p> <p>第8回 上肢の筋力テスト4</p> <p>第9回 上肢の筋力テスト5</p> <p>第10回 上肢の筋力テスト6</p> <p>第11回 上肢の筋力テスト7</p> <p>第12回 頸筋のテスト1</p> <p>第13回 頸筋のテスト2</p> <p>第14回 体幹筋のテスト1</p> <p>第15回 体幹筋のテスト2</p>
履修上の注意	実技が中心の講義になります。運動可能な服装で参加してください。
成績評価	定期試験及び積極的な授業参加を総合して判断する。単位認定者：河西紀秀
テキスト	参考図書. その他
	臨床理学療法評価法 第2版 IPEC 監修；鈴木俊明
	新・徒手筋力検査法 第9版 協同医書出版社

講義名	運動動作分析学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年前期、2単位、60時間（講義）
講義目標	本講義では、運動学、臨床運動学の講義を踏まえ、運動を分析するために必要な動作観察を理解する。特にこの動作観察は理学療法評価において非常に重要な手法である。この講義では基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位、立位、歩行）に焦点をあて、動作観察を文章表現、口頭表現できることを目標とする。
授業計画	第1回 動作観察とは 分析とは 第2回 動作観察・分析の進め方（体験） 第3回 運動力学 第4回 運動力学 第5回 動作観察の記載方法 第6回 寝返り・起き上がりの運動分析 II 第7回 寝返り・起き上がりの運動分析 III 第8回 立ち上がりの運動分析 I 第9回 立ち上がりの運動分析 II 第10回 歩行の運動分析 I 第11回 歩行の運動分析 II 第12回 歩行の運動分析 III 第13回 歩行の運動分析 IV 第14回 中間テスト 第15回 各疾患の運動分析 総論
履修上の注意	実技を伴う講義であります。自ら理解し、自ら表出することがこの講義の理解を深める上で大切です。積極的に講義に取り組むとともに運動学的知識をもう一度整理するように心がけてください。28～30回はパソコンが必要です
成績評価	中間試験3回と期末試験にて総合的に判断する 単位認定：松井 有史
テキスト	参考図書、その他
	上杉雅之 実践！動作分析 医歯薬出版 観察による歩行分析 Kirsten Gotz-Neumann 医学書院 動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー

講義名	運動動作分析学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年前期，2単位，60時間（講義）
講義目標	本講義では、運動学、臨床運動学の講義を踏まえ、運動を分析するために必要な動作観察を理解する。特にこの動作観察は理学療法評価において非常に重要な手法である。この講義では基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位、立位、歩行）に焦点をあて、動作観察を文章表現、口頭表現できることを目標とする。
授業計画	第16回 整形外科疾患の動作分析 第17回 整形外科疾患の動作分析 第18回 整形外科疾患の動作分析 第19回 整形外科疾患の動作分析 第20回 整形外科疾患の動作分析 第21回 中間試験 第22回 脳血管障害の動作分析 第23回 脳血管障害の動作分析 第24回 脳血管障害の動作分析 第25回 脳血管障害の動作分析 第26回 脳血管障害の動作分析 第27回 中間試験 第28回 動作分析文章ワーク1 第29回 動作分析文章ワーク2 第30回 動作分析文章ワーク3
履修上の注意	実技を伴う講義であります。自ら理解し、自ら表出することがこの講義の理解を深める上で大切です。積極的に講義に取り組むとともに運動学的知識をもう一度整理するように心がけてください。 28～30回はパソコンが必要です
成績評価	中間試験3回と期末試験にて総合的に判断する 単位認定：松井 有史
参考図書、その他	上杉雅之 実践！動作分析 医歯薬出版 観察による歩行分析 Kirsten Gotz-Neumann 医学書院 動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー

講義名	基礎筋触療法
講師名	河西 紀秀（実務家教員）
学年・期	1年後期，1単位，30時間（講義）
講義目標	運動器リハビリテーションに携わる理学療法士にとって、安定した治療成績を出すための基礎として、また、実習を通じて正確に触診できる技術を学ぶことを目的とする。
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 上肢触診</p> <p>第3回 上肢触診</p> <p>第4回 上肢触診</p> <p>第5回 上肢触診</p> <p>第6回 上肢触診</p> <p>第7回 上肢触診まとめ</p> <p>第8回 触診実技テスト</p> <p>第9回 触診実技テスト</p> <p>第10回 下肢触診（骨盤周辺）</p> <p>第11回 下肢触診（膝関節周辺）</p> <p>第12回 下肢触診（下腿周辺）</p> <p>第13回 下肢触診（足部周辺）</p> <p>第14回 下肢触診まとめ</p> <p>第15回 上下肢における触診まとめ</p>
履修上の注意	治療室での実技が中心となります。触診しやすい服装であること。
成績評価	<p>期末試験、触診実技テストを総合して判断する。なお、筆記試験の合格点は定期試験で60点以上とする。</p> <p style="text-align: right;">単位認定者：河西</p>
テキスト	<p>機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）</p> <p>機能解剖学的触診技術（上肢）</p> <p>必要に応じてプリント配布</p>
参考図書、その他	必要に応じて紹介

講義名	運動療法学A
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 90時間（講義）
講義目標	運動療法Aは関節可動域訓練に必要な基礎知識を習得する。関節可動域の獲得、関節包内運動の基本的な知識を治療技術に結び付け理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 運動療法総論</p> <p>第2回 関節可動域運動 総論</p> <p>第3回 関節可動域運動 総論</p> <p>第4回 関節可動域運動 関節可動域の制限因子</p> <p>第5回 関節可動域運動 拘縮について</p> <p>第6回 関節可動域運動 骨運動と関節包内運動について</p> <p>第7回 関節可動域運動 骨運動と関節包内運動について</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 関節運動学総論</p> <p>第10回 関節運動学に基づいた関節可動域訓練</p> <p>第11回 各論上肢肩・肘・手関節の関節可動域訓練</p> <p>第12回 各論上肢肩・肘・手関節の関節可動域訓練</p> <p>第13回 各論下肢股・膝・足関節の関節可動域訓練</p> <p>第14回 各論下肢股・膝・足関節の関節可動域訓練実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。実技を伴う講義です。運動ができる服装を用意してください。なお、運動療法学の単位取得の条件は、各担当講師の試験において、それぞれ60点以上を取得することとする。
成績評価	出席状況、単元確認テスト、定期末試験を総合して判断します。
テキスト	参考図書. その他
	<p>運動療法学</p> <p>15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト</p> <p>ト</p>

講義名	運動療法学B
講師名	河西 紀秀（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 90時間（講義）
講義目標	運動療法に必要な基礎知識を習得する。エビデンスを踏まえた筋力トレーニングの基礎知識を理解し、各疾患への応用を図る。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 筋収縮メカニズム</p> <p>第3回 トレーニングの3大原理</p> <p>第4回 筋力強化と骨格筋の形状</p> <p>第5回 筋肥大・筋委縮・筋疲労</p> <p>第6回 OKC・CKCの違いについて（実技含む）</p> <p>第7回 運動療法におけるリスク管理</p> <p>第8回 筋・筋持久力の改善プログラム①</p> <p>第9回 筋・筋持久力の改善プログラム②</p> <p>第10回 筋力トレーニングのエビデンス</p> <p>第11回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（腰痛）</p> <p>第12回 各疾患における筋力トレーニングのあり方膝（膝OA）</p> <p>第13回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）①</p> <p>第14回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）②</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。なお、運動療法学の単位取得の条件は、各担当講師の試験において、それぞれ60点以上を取得することとする。
成績評価	定期末試験を総合して判断します。
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>運動療法学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト</p> <p>標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論</p> <p>プリント配布 必要に応じて書籍を紹介</p>

講義名	運動療法学C
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 30/90時間（講義）
講義目標	運動療法に必要な基礎知識を習得する。筋力増強エクササイズ、関節可動域の獲得、動作の修正など基本的な内容とする。理学療法プログラムの作成に向けての基本的な考え方を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 随意運動と運動制御モデル①</p> <p>第3回 随意運動と運動制御モデル②</p> <p>第4回 随意運動と運動制御モデル③</p> <p>第5回 運動制御と運動学習①</p> <p>第6回 運動制御と運動学習②</p> <p>第7回 運動制御と運動学習③</p> <p>第8回 運動と呼吸①</p> <p>第9回 運動と呼吸②</p> <p>第10回 運動と呼吸③</p> <p>第11回 運動と循環①</p> <p>第12回 運動と循環②</p> <p>第13回 運動と代謝①</p> <p>第14回 運動と代謝②</p> <p>第15回 呼気ガス分析</p>
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。
成績評価	単位取得要件として、学科試験60点以上とする。試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定：福井直樹
テキスト	参考図書. その他
	標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論

講義名	物理療法学	
講師名	小忒武陞（実務家教員）	
学年・期	2年前期. 1/2単位. 30/60時間（通年・講義）	
講義目標	グループ活動を基本とした各種物理療法機器を用いたグループワークを通して、各種物理療法が生体に与える影響、および各疾患への適応と効果について体得する。	
授業計画	第1回 物理療法の歴史と今後の課題・展望（総論） 第2回 物理療法の歴史と今後の課題・展望（各論） 第3回 光線療法の特徴と皮膚の生理機能Ⅰ 第4回 光線療法の特徴と皮膚の生理機能Ⅱ 第5回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅰ 第6回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅱ 第7回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅲ 第8回 寒冷療法の特徴と生理学的作用 第9回 水の物理学的特徴と生理学的作用 第10回 牽引療法の特徴と生理学的作用 第11回 電気療法の原理と生理学的作用Ⅰ 第12回 電気療法の原理と生理学的作用Ⅱ 第13回 マッサージ療法 第14回 物理療法におけるリスク管理 第15回 総括まとめ	
履修上の注意	特になし	
成績評価	出席点20%、小テスト20%、本試験60%	単位認定者：小忒
テキスト	参考図書、その他	
	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 医学書院	

講義名	物理療法学	
講師名	小恠武陸（実務家教員）	
学年・期	2年後期. 1/2単位. 30/60時間（通年・講義）	
講義目標	グループ活動を基本とした各種物理療法機器を用いたグループワークを通して、各種物理療法が生体に与える影響、および各疾患への適応と効果について体得する。	
授業計画	第16回 物理療法学の復習とグループ演習の発表 第17回 各実習テーマの概要説明 第18回 各実習の演習Ⅰ 第19回 各実習の演習Ⅱ 第20回 グループ実習Ⅰ 第21回 グループ実習Ⅰ 第22回 グループ実習Ⅱ 第23回 グループ実習Ⅱ 第24回 グループ実習Ⅲ 第25回 グループ実習Ⅲ 第26回 グループ実習Ⅳ 第27回 グループ実習Ⅳ 第28回 グループ実習Ⅴ 第29回 グループ実習Ⅴ 第30回 まとめ	
履修上の注意	特になし	
成績評価	出席点20%、小テスト20%、本試験60%	単位認定者：小恠
テキスト	参考図書. その他	
	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 医学書院	

講義名	義肢装具学Ⅰ
講師名	松田 宏務（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	<p>上肢・下肢の解剖と運動機能の知識を再確認し、切断と義肢に関する基礎知識を理解する。 そして、切断者の評価・治療・生活指導にわたる理学療法が行えるように学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 総論（切断について・切断原因・合併症・切断部位・切断手技）</p> <p>第2回 術前評価・治療</p> <p>第3回 術後断端管理</p> <p>第4回 義肢の処方（義足の構造と種類）</p> <p>第5回 義足の処方（義足ソケットの適応）</p> <p>第6回 義足適合判定（ベンチ・アライメントのチェック）</p> <p>第7回 義足装着訓練（スタティック・アライメントのチェック）</p> <p>第8回 歩行評価（ダイナミック・アライメントのチェック）</p> <p>第9回 歩行練習</p> <p>第10回 日常生活活動練習</p> <p>第11回 下腿義足</p> <p>第12回 大腿義足</p> <p>第13回 股義足・特殊義足</p> <p>第14回 前腕義手・上腕義手</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	講義、演習を行う。DVDなどで実際の臨床をみる。
成績評価	期末試験、出席状況を総合して判断する。単位認定者：松田宏務
テキスト	<p>義肢学 澤村誠志 編/医歯薬出版</p> <p>義肢学装具学 川村次郎 編/医学書院</p>
	参考図書. その他

講義名	義肢装具学Ⅱ
講師名	松田宏務（実務家教員）
学年・期	3年生前期 1単位 30時間
講義目標	装具の種類とその構造、目的と適応を理解し、適合判定や理学療法の中で有効的に活用できるための知識と技術を学ぶ。また、装具採型過程について実技体験を交え、理解を深める。
授業計画	<p>第1回 装具学 総論（分類・処方・装具支給体系など）</p> <p>第2回 靴型装具 総論（足の構造と機能）</p> <p>第3回 靴型装具 整形外科靴（靴の補正）</p> <p>第4回 下肢装具 総論</p> <p>第5回 下肢装具 足底装具 短下肢装具1</p> <p>第6回 下肢装具 短下肢装具2（片麻痺患者の短下肢装具）</p> <p>第7回 下肢装具 長下肢装具 坐骨支持免荷装具</p> <p>第8回 下肢装具 膝装具 股装具</p> <p>第9回 下肢装具 対麻痺装具 先天性疾患の装具</p> <p>第10回 体幹装具 総論</p> <p>第11回 体幹装具 頸椎装具 頸胸椎装具 胸腰仙椎装具</p> <p>第12回 体幹装具 腰仙椎装具 側弯矯正装具</p> <p>第13回 上肢装具 総論</p> <p>第14回 上肢装具 指・手関節のアプローチ 対立装具 肘装具 肩装具</p> <p>第15回 座位保持装置 車いす 日常生活用具など</p>
履修上の注意	講義・演習を行う。DVDなどで実際の臨床をみる。
成績評価	期末試験、レポート、授業態度、出席状況を総合して判断する。 単位認定者：松田宏務
テキスト	参考図書、その他
	<p>「装具学」加倉井周一 編 医歯薬出版</p> <p>「装具治療マニュアル」加倉井周一 編 医歯薬出版</p> <p>「義肢装具学」川村次郎 編 医学書院</p>

講義名	日常生活動作学
講師名	新家寿貴（実務家教員）
学年・期	3年前期，1単位，30時間
講義目標	理学療法士としてだけでなく，多角的な視点からADLについて考慮する力を養う。
授業計画	第1回 ADLの理解と範囲① 第2回 ADLの理解と範囲② 第3回 ADLの理解と範囲③ 第4回 日常生活の評価① 第5回 日常生活の評価② 第6回 基本動作とADL① 第7回 基本動作とADL② 第8回 基本動作とADL③ 第9回 基本動作とADL④ 第10回 基本動作とADL⑤ 第11回 基本動作とADL⑥ 第12回 疾患とADL 第13回 複合動作指導 第14回 リハビリテーション支援機器 第15回 まとめ
履修上の注意	実技も行いながらの進行となるので，できるだけ動きやすい服装を心がけてください。疑問等があればその場で質問してもらい，教室全体で共有し，解決したいと思います。
成績評価	授業態度，定期試験の結果により評価する。
テキスト	参考図書，その他
	日常生活活動（ADL） 神陵文庫

講義名	日常生活動作学実習
講師名	新家 寿貴（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/1単位. 30時間
講義目標	理学療法士としてだけでなく、多角的な視点からADLについて考慮する力を養う。
授業計画	第1回 基本動作とADL① 第2回 基本動作とADL② 第3回 基本動作とADL③ 第4回 基本動作とADL④ 第5回 基本動作とADL⑤ 第6回 基本動作とADL⑥ 第7回 基本動作とADL⑦ 第8回 基本動作とADL⑧ 第9回 中枢神経・神経筋疾患 第10回 呼吸・循環障害 第11回 骨・関節疾患 第12回 老年期の障害 第13回 その他の障害 第14回 地域リハビリテーション 第15回 まとめ
履修上の注意	実技を行いながらの進行となるので、できるだけ動きやすい服装を心がけてください。疑問等があれば、その場で質問してもらい、教室全体で共有し、解決したいと考えています。
成績評価	授業態度、出席状況、定期試験の結果により評価する。単位認定者；新家寿貴
テキスト	参考図書. その他 日常生活活動（ADL） 神陵文庫

講義名	小児理学療法学	
講師名	林 勝彦（実務家教員）	
学年・期	3年後期，1単位，30時間（講義）	
講義目標	小児理学療法学は脳の障害を中心に行う。特に子供の特徴である発達障害を持って異常な発達となる。そのために、脳の障害によりその障害にも特徴があることを学んでもらい、治療により正常な発達に近づけるにはどういう視点が必要か学んでもらいたい。	
授業計画	第1回 小児リハビリテーション概論① 第2回 小児リハビリテーション概論② 第3回 脳性麻痺総論① 第4回 脳性麻痺総論② 第5回 胎児からの発達と新生児医療① 第6回 胎児からの発達と新生児医療② 第7回 痙直型両麻痺児① 第8回 痙直型両麻痺児② 第9回 アテトーゼ型四肢麻痺① 第10回 アテトーゼ型四肢麻痺② 第11回 痙直型片麻痺① 第12回 痙直型片麻痺② 第13回 重症児① 第14回 重症児② 第15回 まとめ	
履修上の注意	講義と演習	
成績評価	試験と提出物により判定する。	単位認定者：林
テキスト	参考図書，その他	
	プリントを配布します	

講義名	スポーツ理学療法学
講師名	河西紀秀（実務家教員）
学年・期	3年前期. 1単位. 30時間
講義目標	スポーツ理学療法について理解する 競技特性を考慮したリハビリテーションプログラムの作成ができるようになる 医療現場からスポーツ競技復帰などについて理解する
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 スポーツ理学療法の内容および競技復帰までの流れ</p> <p>第3回 スポーツ外傷・障害の発生メカニズム</p> <p>第4回 スポーツ外傷・障害の評価</p> <p>第5回 まとめ（前半）</p> <p>第6回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第7回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第8回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第9回 各論 体幹 発表形式</p> <p>第10回 各論 上肢 発表形式</p> <p>第11回 投球障害 講義・実技</p> <p>第12回 アスレティックリハビリテーション 実技（競技特性を考慮）</p> <p>第13回 アスレティックリハビリテーション 実技</p> <p>第14回 テーピング</p> <p>第15回 まとめ（後半）</p>
履修上の注意	講義はパワーポイントを使います。実技は運動可能な服装が好ましい。
成績評価	授業参加。グループ発表の内容及び定期試験の結果を踏まえて評価します。 単位認定者：河西紀秀
テキスト	参考図書. その他
プリント配布	必要に応じ随時紹介する 関連した文献の配布

講義名	疾患別理学療法学Ⅰ（心大血管リハビリテーション分野）		
講師名	高橋賢一（実務家教員） 松浦邦樹（実務家教員）		
学年・期	3年後期. 2/2単位. 60時間		
講義目標	心臓リハビリテーションを学ぶ 運動における生体反応を理解する 循環器疾患における運動療法・処方の基礎を学ぶ		
授業計画	第1回	心臓リハビリテーションの概要①	高橋
	第2回	心臓リハビリテーションの概要②	高橋
	第3回	解剖・生理	高橋
	第4回	心疾患の検査	高橋
	第5回	心疾患の病態①（X線画像診断）	高橋
	第6回	心疾患の病態②（CT/MRI画像診断）	高橋
	第7回	リスク層別化①	高橋
	第8回	リスク層別化②	高橋
	第9回	バイタルサイン①	高橋
	第10回	バイタルサイン②	高橋
	第11回	運動生理①	松浦
	第12回	運動生理②	松浦
	第13回	運動負荷試験①	松浦
	第14回	運動負荷試験②	松浦
	第15回	心電図①	松浦
履修上の注意	理学療法士としての大きな分野の一つです。予習復習はしっかりと行ってください。		
成績評価	期末試験 小テスト 提出物 出席状況を総合して判断する。		
テキスト	参考図書. その他		
	標準理学療法学 内部障害理学療法学 医学書院		循環器理学療法の理論と技術 メジカルビュー

講義名	疾患別理学療法学Ⅰ（心大血管リハビリテーション分野）	
講師名	高橋賢一（実務家教員） 松浦邦樹（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 2/2単位. 60時間	
講義目標	心臓リハビリテーションを学ぶ 運動における生体反応を理解する 循環器疾患における運動療法・処方の基礎を学ぶ	
授業計画	第16回 心電図② 第17回 実習（CPX）① 第18回 実習（CPX）② 第19回 運動療法 処方① 第20回 運動療法 処方② 第21回 虚血性心疾患のリハビリテーション① 第22回 虚血性心疾患のリハビリテーション② 第23回 虚血性心疾患のリハビリテーション③ 第24回 虚血性心疾患のリハビリテーション④ 第25回 心不全のリハビリテーション① 第26回 心不全のリハビリテーション② 第27回 心臓外科術後のリハビリテーション① 第28回 心臓外科術後のリハビリテーション② 第29回 末梢動脈疾患のリハビリテーション① 第30回 末梢動脈疾患のリハビリテーション②	松浦 松浦 松浦 松浦 松浦 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 松浦 松浦 松浦 松浦
履修上の注意	理学療法士としての大きな分野の一つです。予習復習はしっかりと行ってください。	
成績評価	期末試験 小テスト 提出物 出席状況を総合して判断する。	
テキスト	参考図書. その他	
	標準理学療法学 内部障害理学療法学 医学書院	循環器理学療法の理論と技術 メジカルビュー

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（運動器リハビリテーション分野）（通年）
講師名	鍋嶋崇之（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 2/3単位. 60/90時間
講義目標	運動器疾患の評価～治療のプロセスを理解する 疾患別の理学療法を考え初歩的テクニックを学ぶ
授業計画	<p>第1回 運動器疾患の理学療法について①(運動器とは)</p> <p>第2回 運動器疾患の理学療法について②(運動器とは)</p> <p>第3回 運動器疾患の理学療法について③(関節可動域制限)</p> <p>第4回 運動器疾患の理学療法について④(筋力とは)</p> <p>第5回 運動器疾患の理学療法について⑤(痛み)</p> <p>第6回 運動器疾患の理学療法について⑥(てこ)</p> <p>第7回 肩の理学療法①(肩関節の特徴)</p> <p>第8回 肩の理学療法②(肩関節周囲炎)</p> <p>第9回 肩の理学療法③(腱板断裂)</p> <p>第10回 肩の理学療法④(上腕骨の骨折)</p> <p>第11回 運動器疾患のとらえ方①組織別</p> <p>第12回 運動器疾患のとらえ方②効率から制御と学習</p> <p>第13回 頸部疾患の理学療法①(頸部運動の特徴)</p> <p>第14回 頸部疾患の理学療法②(頸部脊柱管狭窄症, ヘルニア)</p> <p>第15回 腰部疾患の理学療法①(腰痛とは何か)</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合には再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 授業態度も評価とする。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。前期単位認定：鍋嶋
テキスト	参考図書. その他
特になし	運動器疾患の理学療法 神陵文庫

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（運動器リハビリテーション分野）（通年）
講師名	鍋嶋崇之（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 2/3単位. 60/90時間
講義目標	運動器疾患の評価～治療のプロセスを理解する 疾患別の理学療法を考え初歩的テクニックを学ぶ
授業計画	<p>第16回 腰部疾患の理学療法②(脊柱管狭窄症, ヘルニア)</p> <p>第17回 腰部疾患の理学療法③(円背, その他腰部疾患)</p> <p>第18回 股関節疾患の理学療法①(股関節の特徴)</p> <p>第19回 股関節疾患の理学療法②(変形性股関節炎)</p> <p>第20回 股関節疾患の理学療法③(THA)</p> <p>第21回 股関節疾患の理学療法④(大腿骨頸部骨折)</p> <p>第22回 膝関節疾患の理学療法①(膝関節の特徴)</p> <p>第23回 膝関節疾患の理学療法②(変形性膝関節症)</p> <p>第24回 膝関節疾患の理学療法③(TKA)</p> <p>第25回 膝関節疾患の理学療法④(ACL損傷)</p> <p>第26回 足関節疾患の理学療法①(足関節の特徴)</p> <p>第27回 足関節疾患の理学療法②(足関節捻挫)</p> <p>第28回 足関節疾患の理学療法③(その他足関節疾患)</p> <p>第29回 運動器リハまとめ①</p> <p>第30回 運動器リハまとめ②</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合には再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。授業態度も評価とする。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。前期単位認定：鍋嶋
テキスト	参考図書. その他
特になし	運動器疾患の理学療法 神陵文庫

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（呼吸リハビリテーション分野）	
講師名	辻 宏（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1/3単位. 30時間（講義）	
講義目標	呼吸器障害の概論を理解する 呼吸リハビリテーションの理論と技術を理解し、臨床応用できる基礎を学習する	
授業計画	第31回 呼吸リハビリテーションの総論 第32回 基礎知識(正常機能) 第33回 基礎知識(病態) 第34回 評価① 第35回 評価② 第36回 ADL評価と実際 第37回 呼吸リハビリテーション概論 第38回 運動療法 第39回 コンディショニング 第40回 COPDに対する呼吸リハビリテーション 第41回 ALSに対する呼吸リハビリテーション 第42回 排痰における呼吸リハビリテーション 第43回 吸引について 第44回 吸引の実践について 第45,46回 実技：呼吸介助手段①、実技：呼吸介助手段②	承認印
履修上の注意	呼吸に関する解剖学や生理学はしっかり把握しておいてください。	
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ 前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。後期単位認定：辻	
テキスト	参考図書、その他	
	動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版 中山書店	必要に応じ適宜紹介する

講義名	疾患別理学療法学Ⅲ A(脳血管障害分野)
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 1/3単位. 30/90時間（講義・実習）
講義目標	脳血管障害患者に対して行う中枢神経系理学療法は非常に多岐にわたり、解剖学的な知識、障害像の把握、臨床推論能力が必要となります。本講義では、より幅広い知識に基づいて中枢神経系理学療法が施行できるようにします。
授業計画	第1回 中枢神経系理学療法の基礎知識 第2回 運動と感覚の中枢機能と構造 第3回 脳損傷の定義と病態 第4回 脳の損傷とその回復 第5回 脳血管障害における医学管理 第6回 脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ 第7回 脳血管障害後方麻痺患者の運動障害の特徴 第8回 中間試験 第9回 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(1) 第10回 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(2) 第11回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(1) 第12回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(2) 第13回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(3) 第14回 脳血管障害における合併症 第15回 高次脳機能障害と理学療法
履修上の注意	脳の解剖学や生理学は事前に予習しておいてください。
成績評価	疾患別理学療法学ⅢA・B・C それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。 認定者：福井
テキスト	参考図書、その他
	理学療法テキスト 神経障害理学療法学I 中山書店 神経障害理学療法学II 中山書店

講義名	疾患別理学療法学Ⅲ B（脳血管障害分野）
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 1/3単位. 30/90時間（講義・実習）
講義目標	脳血管障害患者に対して行う中枢神経系理学療法は非常に多岐にわたり、解剖学的な知識、障害像の把握、臨床推論能力が必要となります。 本講義では、より幅広い知識に基づいて中枢神経系理学療法が施行できるようにします。
授業計画	<p>第16回 脳の構造と機能（大脳基底核の役割）</p> <p>第17回 パーキンソン病の症状と病態生理 1</p> <p>第18回 パーキンソン病の症状と病態生理 2</p> <p>第19回 パーキンソン病に対する評価 1</p> <p>第20回 パーキンソン病に対する評価 2、治療 1</p> <p>第21回 パーキンソン病のリハと理学療法</p> <p>第22回 PD（パーキンソン病）の事例、中枢性における難病患者のリハ</p> <p>第23回 運動失調症のリハビリテーションと理学療法</p> <p>第24回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ①</p> <p>第25回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ②</p> <p>第26回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ③</p> <p>第27回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ④</p> <p>第28回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑤</p> <p>第29回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑥</p> <p>第30回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑦</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅲ A・B・C それぞれ60点以上で単位取得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。認定者：福井
テキスト	参考図書、その他
	<p>理学療法テキスト</p> <p>神経障害理学療法学I 中山書店</p> <p>神経障害理学療法学II 中山書店</p>

講義名	疾患別理学療法学ⅢC（脳血管障害分野） 通年	
講師名	松井 有史（実務家教員） 上西 啓裕（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1/3単位. 30/90時間（講義）	
講義目標	脳血管障害における治療の流れを理解し、理学療法士としての仕事について把握する。 （ゴール設定、治療方法、リスク管理、予後予測等の理学療法士としての知識・技術の習得）	
授業計画	第1回 オリエンテーション	松井
	第2回 問題点抽出1	松井
	第3回 問題点抽出2	松井
	第4回 問題点抽出3	松井
	第5回 問題点抽出4	松井
	第6回 問題点抽出5	松井
	第7回 問題点抽出6	松井
	第8回 脳卒中の理学療法1	上西
	第9回 脳卒中の理学療法2	上西
	第10回 脳卒中の理学療法3	上西
	第11回 脳卒中の理学療法4	上西
	第12回 脳卒中の理学療法5	上西
	第13回 脳卒中の理学療法6	上西
	第14回 脳卒中の理学療法7	上西
	第15回 脳卒中の理学療法8	上西
履修上の注意	「脳卒中の理学療法」は実技を行う場合があるので、動きやすい服装を準備すること	
成績評価	疾患別理学療法学ⅢA・B・C それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。	
テキスト	参考図書. その他	
	毎回、プリントを配布します	

講義名	疾患別理学療法Ⅳ				
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)				
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間(講義)				
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。				
授業計画	第1回	国家試験対策	1	模試	松井
	第2回	国家試験対策	2	模試	松井
	第3回	国家試験対策	3	模試	松井
	第4回	国家試験対策	4	模試	松井
	第5回	国家試験対策	5	模試	松井
	第6回	国家試験対策	6	模試	松井
	第7回	国家試験対策	7	模試	松井
	第8回	国家試験対策	8	模試	松井
	第9回	国家試験対策	9	模試	松井
	第10回	国家試験対策	10	模試	松井
	第11回	国家試験対策	11	模試	松井
	第12回	国家試験対策	12	模試	松井
	第13回	国家試験対策	13	模試	松井
	第14回	国家試験対策	14	模試	松井
	第15回	国家試験対策	15	模試	松井
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です				
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史				
テキスト	参考図書. その他				
	適宜プリント配布する				

講義名	疾患別理学療法Ⅳ				
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)				
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間(講義)				
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。				
授業計画	第16回	国家試験対策	1 6	模試	松井
	第17回	国家試験対策	1 7	模試	松井
	第18回	国家試験対策	1 8	模試	松井
	第19回	国家試験対策	1 9	模試	松井
	第20回	国家試験対策	2 0	模試	松井
	第21回	国家試験対策	2 1	模試	松井
	第22回	国家試験対策	2 2	模試	松井
	第23回	国家試験対策	2 3	模試	松井
	第24回	国家試験対策	2 4	模試	松井
	第25回	国家試験対策	2 5	模試	松井
	第26回	国家試験事前オリエンテーション			松井
	第27回	褥瘡	1		北出
	第28回	褥瘡	2		北出
	第29回	褥瘡	3		北出
	第30回	褥瘡	4		北出
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です				
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史				
テキスト	参考図書. その他				
	適宜プリント配布する				

講義名	疾患別理学療法Ⅳ		
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)		
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間(講義)		
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。		
授業計画	第31回	リンパ 浮腫 1	岩田
	第32回	リンパ 浮腫 2	岩田
	第33回	リンパ 浮腫 3	岩田
	第34回	リンパ 浮腫 4	岩田
	第35回	リンパ 浮腫 5	岩田
	第36回	リンパ 浮腫 6	岩田
	第37回	リンパ 浮腫 7	岩田
	第38回	リンパ 浮腫 8	岩田
	第39回	癌リハビリテーション 1	高根
	第40回	癌リハビリテーション 2	高根
	第41回	癌リハビリテーション 3	高根
	第42回	癌リハビリテーション 4	高根
	第43回	国家試験直前オリエンテーション	松井
	第44回	和歌山県の理学療法士について 1	松井
	第45回	和歌山県の理学療法士について 2	松井
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です		
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史		
テキスト	参考図書. その他		
	適宜プリント配布する		

講義名	理学療法技術論Ⅰ
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期，2単位，60時間（講義）
講義目標	理学療法を展開するためには，疾患に応じた評価を理解し，その技術を習得することは必須である。本講義では筋緊張検査，協調性検査，片麻痺機能検査の一部を理解し，検査技術の向上を図ることを目的とする。
授業計画	第1回 総論 第2回 感覚検査 第3回 感覚伝導路① 第4回 感覚伝導路② 第5回 表在感覚① 第6回 表在感覚② 第7回 深部感覚① 第8回 深部感覚② 第9回 複合感覚 第10回 感覚検査まとめ 第11回 反射 第12回 深部腱反射 第13回 表在反射 第14回 病的反射 第15回 片麻痺機能検査総論
履修上の注意	実技を伴う講義では，運動可能な服装を用意してください。
成績評価	OSCE，定期試験と出席状況により判断する。 単位取得要件として，OSCE60点以上かつ学科試験60点以上とする。総成績評価において60点以上であったとしても，OSCEもしくは学科試験等の一方が60点未満である場合は単位を認めない。定期試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書，その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイバック

講義名	理学療法技術論Ⅰ
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期，2単位，60時間（講義）
講義目標	理学療法を展開するためには，疾患に応じた評価を理解し，その技術を習得することは必須である。本講義では筋緊張検査，協調性検査，片麻痺機能検査の一部を理解し，検査技術の向上を図ることを目的としている。
授業計画	<p>第16回 片麻痺機能検査・・・Brunnstrom Recovery Stage Test ①</p> <p>第17回 片麻痺機能検査・・・Brunnstrom Recovery Stage Test ②</p> <p>第18回 筋緊張検査①</p> <p>第19回 筋緊張異常②</p> <p>第20回 実技練習①</p> <p>第21回 実技練習②</p> <p>第22回 実技練習③</p> <p>第23回 実技練習④</p> <p>第24回 片麻痺機能検査・・・上田による13段階法 ①</p> <p>第25回 片麻痺機能検査・・・上田による13段階法 ②</p> <p>第26回 協調性検査①</p> <p>第27回 協調性検査②</p> <p>第28回 協調性検査③</p> <p>第29回 協調性検査④</p> <p>第30回 まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では，運動可能な服装を用意してください。
成績評価	OSCE，定期試験と出席状況により判断する。 単位取得要件として，OSCE60点以上かつ学科試験60点以上とする。総成績評価において60点以上であったとしても，OSCEもしくは学科試験等の一方が60点未満である場合は単位を認めない。定期試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書，その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイバック

講義名	理学療法技術論Ⅱ (通年)
講師名	福井直樹 (実務家教員)
学年・期	3年前期 (通年) . 1/2単位. 30/60 時間 (講義)
講義目標	科学的根拠に基づく介入が強調される昨今において、適切な機能帰結を用いた帰結評価が不可欠である。本講義では、標準的な評価指標を学ぶとともに、介入効果を検証できる能力を獲得することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 臨床評価について (概論)</p> <p>第2回 最大歩行速度</p> <p>第3回 Functional Reach test</p> <p>第4回 Timed"Up and Go" test</p> <p>第5回 6分間歩行距離</p> <p>第6回 漸増シャトルウォーキングテスト</p> <p>第7回 Mini Mental State Examination・長谷川式簡易知能評価スケール</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 機能的バランス指標</p> <p>第10回 痛みの評価 (VAS, NRS, 簡略版マクギル疼痛質問票)</p> <p>第11回 fugl-meyer scale (上肢)</p> <p>第12回 fugl-meyer scale (下肢・バランス・感覚)</p> <p>第13回 高次脳機能障害に関わる評価指標</p> <p>第14回 バーセルインデックス・機能的自立度評価表</p> <p>第15回 SF-36, SF-8, 生活満足度尺度</p>
履修上の注意	グループ学習、実技試験などでは講義時間以外に治療室などを使用し、自主学習に取り組んでください。
成績評価	前期の中間試験と期末試験で(60点以上)、後期のOSCE(60点以上)により判断する。
	単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書、その他
	臨床評価指標入門 初版 協同医書出版社 リハビリテーションにおける評価法ハンドブック 第1版 医歯薬出版
	臨床理学療法評価法 第1版 アイパック

講義名	理学療法技術論Ⅱ
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	3年後期（通年）. 1/2単位. 30/60 時間（講義）
講義目標	科学的根拠に基づく介入が強調される昨今において、適切な機能帰結を用いた帰結評価が不可欠である。本講義では、標準的な評価指標を学ぶとともに、介入効果を検証できる能力を獲得することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 臨床評価実習反省会</p> <p>第2回 理学療法評価について(復習)</p> <p>第3回 stroke impairment assessment set(SIAS)①</p> <p>第4回 stroke impairment assessment set(SIAS)②</p> <p>第5回 stroke impairment assessment set(SIAS)③</p> <p>第6回 functional independence measure(FIM)①</p> <p>第7回 functional independence measure(FIM)②</p> <p>第8回 functional independence measure(FIM)③</p> <p>第9回 クリニカルリーズニングとは</p> <p>第10回 クリニカルリーズニングの実践(グループ)</p> <p>第11回 クリニカルリーズニングの実践(個人)</p> <p>第12回 OSCE(出題内容通知)</p> <p>第13回 OSCE予習</p> <p>第14回 OSCE予習</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	グループ学習、実技試験などでは講義時間以外に治療室などを使用し、自主学習に取り組んでください。
成績評価	前期末の定期試験(60点以上)、後期末のOSCE(60点以上)により判断する。 単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書、その他
	脳卒中患者の機能評価SIASとFIMの実際 金原出版

講義名	理学療法技術論Ⅲ（通年）
講師名	浅見 岳志（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 1/2単位. 30/60時間（講義・実技）
講義目標	Proprioceptive neuromuscular facilitation（PNF）の基本的な理論・技術を学ぶことを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・PNFの歴史・哲学</p> <p>第2回 生理学的基本原理, 基本手順</p> <p>第3回 パターン, テクニックについて①</p> <p>第4回 パターン, テクニックについて②</p> <p>第5回 パターン, テクニックについて③</p> <p>第6回 デモンストレーション（実際の患者のVTR）①</p> <p>第7回 パターン, テクニックについて④</p> <p>第8回 パターン, テクニックについて⑤</p> <p>第9回 マット, アクティビティについて</p> <p>第10回 デモンストレーション（実際の患者のVTR）②</p> <p>第11回 歩行について</p> <p>第12回 評価, 治療計画について</p> <p>第13回 グループワーク①</p> <p>第14回 グループワーク②</p> <p>第15回 テスト</p>
履修上の注意	実技を取り入れるため, 動きやすい服装で参加してください。
成績評価	理学療法技術論Ⅲ前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし, 成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また, 前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。
テキスト	参考図書, その他
	毎回プリントを配布します

講義名	理学療法技術論Ⅲ
講師名	笠井正（実務家教員）
学年・期	3年後期（通年）. 1/2単位. 30/60時間（講義）
講義目標	理学療法手技のひとつにストレッチングがあります。そのストレッチングの方法の中にIDストレッチング（Individual Muscle Stretching）があります。このストレッチングの技術習得を目標にこの講義を行います。個別の筋に対してのアプローチになりますから、筋系の解剖学の復讐も兼ねております。したがって、解剖学の教科書も持参してください。
授業計画	第1回 IDストレッチング総論1 第2回 IDストレッチング総論2 第3回 IDストレッチングの定義と基礎知識 第4回 IDストレッチングの基礎知識 第5回 ランドマークと触診 第6回 IDストレッチングの方法とデモンストレーション 第7回 体幹・上肢① 第8回 体幹・上肢② 第9回 体幹・上肢③ 第10回 体幹・上肢④ 第11回 下肢① 第12回 下肢② 第13回 下肢③ 第14回 下肢④ 第15回 下肢⑤、まとめ
履修上の注意	実技を伴う講義では、運動可能な服装を用意してください。
成績評価	理学療法技術論Ⅲ前期・後期 それぞれ60点以上で単位取得 60点以下の場合は再試験を実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。後期単位認定：笠井
テキスト	参考図書、その他 IDストレッチング第2版 編集：鈴木重行 三輪書店

講義名	摂食・嚥下指導	
講師名	山崎 良一（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	摂食・嚥下を実感する 障害を考える	
授業計画	第1回 嚥下の基礎 摂食・嚥下メカニズム 第2回 摂食嚥下障害の原因・症状 第3回 摂食嚥下障害の診察と検査・評価 第4回 摂食嚥下障害のリハビリテーション 1 第5回 摂食嚥下障害のリハビリテーション 2 第6回 摂食・嚥下障害（姿勢調整） 第7回 摂食・嚥下障害（食事介助） 第8回 摂食・嚥下障害 自助具・食器 第9回 摂食・嚥下障害 リスク管理（肺炎 窒息 脱水 栄養障害） 第10回 吸引の実演 第11回 歯科・口腔外科 口腔ケアと口腔機能 第12回 耳鼻科 外科的治療 第13回 栄養管理 第14回 総論 第15回 テスト	
履修上の注意	講義と演習	
成績評価	試験と提出物により判定する。	単位認定者：山崎 他
テキスト	参考図書. その他	
	プリント配布します	

講義名	地域理学療法学	
講師名	松井 有史（実務家教員）	
学年・期	4年後期，1単位，30時間（講義）	
講義目標	地域理学療法学とは理学療法の対象となる問題は，退院後も存在する。対象者が在宅生活を送る中で障害の悪化の予防や機能回復を図るための理学療法士および社会の活動について学習します。	
授業計画	第1回 地域理学療法について オリエンテーション 第2回 地域理学療法の基礎 第3回 他職種連携とは 第4回 地域理学療法における他職種の専門性を知る1 第5回 地域理学療法における他職種の専門性を知る2 第6回 地域理学療法における他職種の専門性を知る3 第7回 地域理学療法における治療法1（訪問理学療法の実際） 第8回 地域包括ケアシステムとは 第9回 地域包括ケアシステム（和歌山市の実際） 第10回 地域包括ケアシステム（自立支援会議1） 第11回 地域包括ケアシステム（自立支援会議2） 第12回 地域包括ケアシステム（自立支援会議3） 第13回 地域における健康体操等の実際1 第14回 地域における健康体操等の実際2 第15回 まとめ	
履修上の注意	今後の社会情勢に関わる授業になります。 しっかりと復習しましょう	
成績評価	出席状況と授業への取り組みにより判断	単位認定者：松井有史
テキスト	参考図書，その他	
	適時、資料を配布する	治療の目で見えるレクリエーション 監修 高橋精一郎 著者 清水和代 神陵文庫

講義名	地域理学療法学実習	
講師名	亀井 貴史（実務家教員）	
学年・期	4年後期，1単位，30時間（講義）	
講義目標	地域理学療法学実習では施設見学を通じ、地域における理学療法士および社会の活動について学習します。また、施設にて実習を行う。	
授業計画	第1回 地域リハビリテーションの定義と制度 第2回 地域リハビリテーションの定義と制度 第3回 急性期・回復期リハビリテーション病棟を有する病院の役割 南河 第4回 介護予防・地域支援事業と地域包括ケアシステムの理解 第5回 介護予防・地域支援事業と地域包括ケアシステムの理解 第6回 介護保険法の仕組みと利用の流れ 第7回 介護保険法の仕組みと利用の流れ 第8回 ケアプラン作成実習 第9回 住環境整備プラン作成実習 第10回 福祉施設体験実習（プライマリーネット） 第11回 福祉施設体験実習（プライマリーネット） 第12回 福祉施設体験実習（プライマリーネット） 第13回 福祉施設体験実習（プライマリーネット） 第14回 福祉施設体験実習（プライマリーネット） 第15回 地域リハと理学療法士の役割に関する検討会	
履修上の注意	服装は下記の要件でお願いします。 プライマリーネット：学校指定の白衣	
成績評価	出席状況・レポート・受講態度など	単位認定者：亀井貴史
テキスト	参考図書，その他	
	プリント配布します	

講義名	住環境学
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	2年前期，1単位，30時間（講義）
講義目標	<p>増加する高齢者や地域・在宅で生活する障害者にとって生活しやすい環境を作ることが求められる社会となっている。ここでは、つぎの5点を目標に学んでください。</p> <p>①高齢者や障害者を取り巻く社会状況と住環境整備について理解する。②障害のとらえ方と障害の特性について理解する。③疾患・障害別にみた住環境整備について理解する。④福祉住環境整備のマネジメントと基本技術について理解する。⑤福祉用具について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境①（生活状況と住環境整備・介護保険）</p> <p>第2回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境②（オレンジプラン・住宅施策） 障害者を取り巻く社会状況と住環境①（生活と住環境）</p> <p>第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境②（福祉施策・住宅施策） 福祉住環境コーディネーターの役割と機能</p> <p>第4回 (1)障害のとらえ方、(2)リハビリテーションと自立支援 (3)高齢者の心身の特性、(4)障害者の心身の特性</p> <p>第5回 在宅介護での自立支援の在り方 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備①（脳血管障害など）</p> <p>第6回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備②（関節リウマチなど） 障害別にみた福祉住環境整備①</p> <p>第7回 障害別にみた福祉住環境整備② （内部障害など）</p> <p>第8回 障害別にみた福祉住環境整備③（認知・行動障害など） 福祉住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方</p> <p>第9回 福祉住環境整備関連職への理解と連携 相談援助の実践的な進め方</p> <p>第10回 福祉住環境整備の共通基本技術</p> <p>第11回 生活行為別福祉住環境整備の手法①（外出など）</p> <p>第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法②（入浴など）</p> <p>第13回 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識</p> <p>第14回 福祉用具の意味と適用 生活行為別にみた福祉用具の活用①（起居・就寝など）</p> <p>第15回 生活行為別にみた福祉用具の活用②（排泄など） まとめ</p>
履修上の注意	<p>予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。</p> <p>福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指します（受験は任意です）。 受験料6,480円と交通費等の諸経費が必要です。</p>
成績評価	<p>小テスト・期末試験・課題等から総合的に判断します。 単位認定者：石橋 誠隆</p>
テキスト	<p>参考図書，その他</p> <p>福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式 テキスト＜改訂5版＞ 東京商工会議所編</p> <p>配布資料あり。</p>

講義名	見学・体験実習	
講師名	専任教員、実務経験のある教員（各施設の実習指導者） （実務家教員）	
学年・期	2年通年 1単位、45時間	
講義目標	医療保険や介護保険・福祉領域など理学療法士の勤務する施設は多種多様である。それぞれの業務の特徴を理解し、実動を体験することで理学療法士の職域の広さと医療・福祉について理解を深めることができる。そして、学内で習得した評価技術を臨床現場で経験することを目的とする。	
授業計画	第1回 実習前オリエンテーション 第2回 実習前オリエンテーション 第3回 医療・介護保険領域見学実習 * 第4回 医療・介護保険領域見学実習 * 第5回 医療・介護保険領域見学実習 * 第6回 医療・介護保険領域見学実習 * 第7回 医療・介護保険領域見学実習 * 第8回 医療・介護保険領域見学実習 * 第9回 医療・介護保険領域見学実習 * 第10回 医療・介護保険領域見学実習 * 第11回 検査測定体験実習① ** 第12回 検査測定体験実習② ** 第13回 検査測定体験実習③ ** 第14回 検査測定体験実習④ ** 第15回 検査測定体験実習⑤ ** 第16回 検査測定体験実習⑥ ** 第17回 検査測定体験実習⑦ ** 第18回 検査測定体験実習⑧ ** 第19回 検査測定体験実習⑨ ** 第20回 検査測定体験実習⑩ ** 第21回 検査測定体験実習⑪ ** 第22回 検査測定体験実習⑫ ** 第23回 体験実習（検査測定）報告会	
履修上の注意	*9月〇日（〇）～〇日（〇）の中で2日間 **2月〇日（〇）～2月〇日（〇）の中で4日間 各学生の日程は学校側で調整し、後日報告する。	
成績評価	レポート課題、出席状況	単位認定者：専任教員
テキスト	参考図書、その他	
配布プリント	本実習は「実務経験のある教員等による授業科目」に該当する	

講義名	臨床評価実習
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位
講義目標	学内で学んだ各種理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、理学療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 実習前OSCE。オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した理学療法評価を抽出できる。</p> <p>4 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p> <p>5 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評定表に加え、実習前OSCE、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。
テキスト	参考図書、その他
実習の手引き	リハビリテーション評価ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社 理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂

講義名	臨床総合実習Ⅰ
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	4 年 学期 前期 時間 360 時間 必修 8 単位
講義目標	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床患者過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる</p> <p>4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる</p> <p>5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる</p> <p>6 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる</p> <p>7 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>8 週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。
テキスト	参考図書、その他
実習の手引き	リハカルテ活用ハンドブック MEDICAL VIEW 理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 協同医書出版 PT 卒後ハンドブック 三輪書店

講義名	臨床総合実習Ⅱ
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	4年
学期	前期
時間	360時間
必修	必修
単位	8単位
講義目標	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3週目 リスクを加味した上で理学療法の内容を抽出できる。</p> <p>4週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>5週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法が実施できる</p> <p>6週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる</p> <p>7週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで基本的理学療法が実施できる</p> <p>8週目 臨床実習指導者の助言・指導のもと基本的理学療法を遂行できる。実習後OSCE。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び実習後OSCEにて判定する。
テキスト	参考図書、その他
実習の手引き	実践すぐに使えるリハビリ技術マスターガイド 理学療法評価学 文光堂 ランニング 南江堂

講義名	臨床総合実習Ⅲ
講師名	専任教員、実務経験のある教員（各施設の実習指導者） （実務家教員）
学年・期	4学年・前期 45時間 1単位
講義目標	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの見学を通じて、地域とのつながりにおける理学療法士の業務の理解や障害者や高齢者に対するリハビリテーションについて経験し、理学療法士を目指す学生としての方向性を確認する。

シラバス

- 1日目 オリエンテーション・施設説明
- 2日目 指導者より地域での理学療法士の役割について説明を受ける
- 3日目 理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の専門性について説明を受ける
- 4日目 理学療法場面を見学し、指導者より地域の繋がりについて説明を受ける
- 5日目 実習まとめ

履修上の注意 各施設への割り振りを確認してください。
見学に行った施設へお礼状は必ず出す事。

成績評価 レポート提出、出席、受講・見学態度を総合して評価する

テキスト 参考図書、その他

特になし

本実習は「実務経験のある教員等による授業科目」に該当する

講義名	理学療法ゼミ I (国家試験対策)		
講師名	松井有史 福井直樹 笠井 正 河西紀秀 石橋誠隆 (実務家教員)		
学年・期	2年後期, 1/2単位, 30/60時間		
講義目標	理学療法士国家試験を合格を目標とし、自己学習を中心に行う。 具体的な標的行動を導き出すために、学ぶ分野を自己決定させることで勉学への意欲を向上させ、行動(学習)の定着を目指す。 模擬試験を行い、現状の理解度を試すとともに、学生は自己分析を行い、さらに4年生時の対策を作れるよう促す。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回		
	第3回		
	第4回	国家試験対策	
	第5回	運動学/解剖学/生理学	
	第6回		
	第7回	模擬試験	
	第8回		
	第9回		
	第10回	国家試験対策	
	第11回	運動学/解剖学/生理学	
	第12回		
	第13回		
	第14回		
	第15回	模擬試験	
履修上の注意	グループワークの中で各個人、問題の解説を丁寧に実施。 4年次の国試対策に向け、勉強方法を構築する。		
成績評価	模擬試験・出席状況・授業態度を総合して判断します。		単位認定者：河西紀秀
テキスト	参考図書, その他		
	国試の達人	運動解剖生理学編	
	国試の達人	臨床医学編	
	国試の達人	理学療法編	

講義名	理学療法ゼミⅠ
講師名	松井有史 福井直樹 笠井 正 河西紀秀 石橋誠隆 (実務家教員)
学年・期	2年後期(通年) . 1/2単位. 30/60時間(講義)
講義目標	理学療法士国家試験を合格を目標とし、自己学習を中心に行う。 具体的な標的行動を導き出すために、学ぶ分野を自己決定させることで勉学への意欲を向上させ、行動(学習)の定着を目指す。 模擬試験を行い、現状の理解度を試すとともに、学生は自己分析を行い、さらに4年生時の対策を作れるよう促す。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 第3回 第4回 国家試験対策 第5回 臨床医学 病理学 第6回 第7回 模擬試験 第8回 第9回 第10回 国家試験対策 第11回 臨床医学 内科 第12回 第13回 第14回 第15回 模擬試験
履修上の注意	グループワークの中で各個人、問題の解説を丁寧に実施。 4年次の国試対策に向け、勉強方法を構築する。
成績評価	模擬試験・出席状況・授業態度を総合して判断します。
テキスト	参考図書、その他
	プリント配布

講義名	理学療法ゼミⅡ		
講師名	松井有史 福井直樹 笠井 正 河西紀秀 石橋誠隆 (実務家教員)		
学年・期	3年前期(通年) . 1/2単位. 30/60時間(講義)		
講義目標	各ゼミに分かれて、各ゼミテーマを理解した上で自ら課題に取り組み解決する能力を養う。また、ゼミの意味、ゼミ生同志の協力などを通して豊かな人間性を育むことをこの講義では目標としている。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	各ゼミ担当者授業	
	第3回		
	第4回		
	第5回		
	第6回		
	第7回		
	第8回		
	第9回		
	第10回		
	第11回		
	第12回		
	第13回		
	第14回		
	第15回		
履修上の注意	第1回目の講義では各ゼミ教員のゼミテーマプレゼンテーションがあります。そのテーマを理解した上で、選択するゼミを決めますので、必ず参加してください。		
成績評価	各ゼミ担当者により評価(詳細は各ゼミ担当者から報告) 単位認定者: 松井有史		
テキスト	参考図書. その他		
	特になし		

講義名	理学療法ゼミⅡ
講師名	松井有史、福井直樹、笠井 正、河西 紀秀 石橋誠隆 (実務家教員)
学年・期	3年前期(通年) . 1/2単位. 30/60時間
講義目標	これまで学んだ各单元について復習し、臨床実習にむけた包括的な思考プロセスと理学療法評価法を再確認することを目的とする。
授業計画	第1回 理学療法ゼミⅠについて(松井) 第2回 臨床実習ガイダンス(福井) 第3回 臨床実習の流れ(笠井) 第4回 実習に対する考え方①(松井) 第5回 実習に対する考え方②(松井) 第6回 実習に対する考え方③(松井) 第7回 実習に対する考え方④(松井) 第8回 ICFと評価について(笠井) 第9回 検査・測定と評価の理解(笠井) 第10回 ADL指導について(笠井) 第11回 脳画像の診かた①(福井) 第12回 脳画像の診かた②(福井) 第13回 実習について①(河西) 第14回 実習について②(河西) 第15回 実習について③(河西)
履修上の注意	実習についての授業です。
成績評価	出席状況にて判断します。 単位認定者：松井 有史
テキスト	参考図書. その他 適宜プリントを配布します

講義名	PTセミナー I (東洋医学)
講師名	浅野 真里絵
学年・期	1年前期, 1/2単位, 30/60時間(講義)
講義目標	東洋医学の考え方を学び、自身の生活を見直す習慣をつける。
シラバス	<p>第1回 東洋医学の考え方</p> <p>第2回 人体を構成する要素について</p> <p>第3回 気・血・津液の変調</p> <p>第4回 五臓六腑について①</p> <p>第5回 五臓六腑について②</p> <p>第6回 五臓の変調</p> <p>第7回 六腑の変調</p> <p>第8回 病因について</p> <p>第9回 四診について①</p> <p>第10回 四診について②</p> <p>第11回 漢方薬・医食同源について</p> <p>第12回 経絡と経穴について①</p> <p>第13回 経絡と経穴について②</p> <p>第14回 鍼灸治療について①</p> <p>第15回 鍼灸治療について②</p>
履修上の注意	知識の幅を広げるための授業です
成績評価	期末試験、提出物、授業態度を総合して判断する。
テキスト	参考図書, その他
	毎日プリントを配布します

講義名	P T セミナー I (英会話)
講師名	スミス エイドリアン
学年・期	1年前期. 1/2単位. 30時間 (講義)
講義目標	英語圏の日常で用いられる英語の基本表現を学び、基礎的な文法項目を復習しながら、オーラル・コミュニケーション活動を通じて英語による会話能力を高めることを目的とする。
シラバス	第1回 Unit 1 第2回 Unit 2 第3回 Unit 3 第4回 Units 4-5 第5回 Units 6-7 第6回 Unit 8 第7回 Units 11-12 第8回 Unit 13 第9回 Unit 14 第10回 Unit 15 第11回 Unit 19 第12回 Unit 21 第13回 Unit 16 第14回 Unit 17 第15回 まとめ
履修上の注意	外国語は自ら学ぶ姿勢が大切です。毎週の予習をしっかりと行った上で、授業に臨んでください。
成績評価	出席状況、定期試験、を総合して判断する。単位認定者：スミス エイドリアン
テキスト	参考図書. その他 Cambridge Basic Grammar In Use 2e (Japan bilingual edition) ISBN 978-4-902290-04-2
	プリント配布します

講義名	PTセミナーⅡ（解剖学・生理学）
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年前期，1/2単位，30/60時間（講義）
講義目標	解剖学・生理学の知識は理学療法を実施するなかで非常に重要です。また国家試験問題の出題比率も高い。本講義では自ら学ぶ姿勢の中で1学年で学んだ知識の再確認と国家試験に向けての学習方法の確立を目標とする。
授業計画	<p>第1回 本講義の総論，理学療法国家試験について</p> <p>第2回 解剖学－骨関節・筋</p> <p>第3回 解剖学－神経</p> <p>第4回 解剖学－脈管，内臓</p> <p>第5回 解剖学－感覚器，体表・断層解剖，総論・組織</p> <p>第6回 解剖学－まとめ</p> <p>第7回 生理学－神経・筋</p> <p>第8回 生理学－感覚，運動，自律神経</p> <p>第9回 生理学－呼吸・循環，血液・免疫</p> <p>第10回 生理学－消化器，体温調節・生殖</p> <p>第11回 生理学－内分泌・栄養・代謝，総論・細胞</p> <p>第12回 生理学－まとめ</p> <p>第13回 総復習</p> <p>第14回 まとめテスト1</p> <p>第15回 まとめテスト2</p>
履修上の注意	PTセミナーⅡの評価は本講義60点以上かつPTセミナーⅡ(内科学)60点以上とする。
成績評価	40点(小テスト20点×2，まとめ40点の平均)+60点(まとめテストの平均)を総合して判断する。 単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書，その他
標準理学・作業療法学 解剖学 第2版 編集：野村嶺	プロメテウス 解剖学アトラス 監訳：坂井建雄
系統看護学講座 解剖生理学 医学書院	日本人体解剖学 上・下巻 著者：金子丑之助

講義名	PTセミナーⅡ（内科学）
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/2単位. 30/60時間
講義目標	①内科学の重要な疾患について構造、生理、症候、病態生理を理解する。 ②各種疾患の基礎的な項目について、理学療法士として運動療法の実施やリスク管理上必要な知識を理解する。
授業計画	<p>第1回 肝・胆・膵の解剖と機能とは 肝胆膵疾患（基礎・症候と病態生理）</p> <p>第2回 リハビリでは未開の分野だが潜在的ニーズあり！ 肝胆膵疾患（各論）</p> <p>第3回 ADL・QOLに関係する疾患！ 血液・造血器疾患</p> <p>第4回 代謝の仕組み 代謝疾患（基礎・代謝調節の仕組み）</p> <p>第5回 糖尿病を知る。 代謝疾患（各論）</p> <p>第6回 糖尿病以外にも大切です！ 代謝疾患（各論）</p> <p>第7回 ホルモン！ 内分泌疾患（総論・基礎）</p> <p>第8回 その症状、内分泌系が原因かも！？～前編～ 内分泌疾患（各論）</p> <p>第9回 その症状、内分泌系が原因かも！？～後編～ 内分泌疾患（各論）</p> <p>第10回 排泄の解剖と機能 腎・泌尿器疾患（基礎・症候と病態生理）</p> <p>第11回 排泄ができない影響は大！ 腎・泌尿器疾患（各論）</p> <p>第12回 以外に多い対象疾患。 免疫・アレルギー疾患・膠原病</p> <p>第13回 日常に潜む恐怖！相手を知り予防！ 感染症</p> <p>第14回 皮膚疾患</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	理学療法の対象疾患となる分野であり、国家試験にも出題される分野です。予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。
成績評価	期末試験、講義毎の確認テスト、提出物等から総合的に判断します。 単位認定者：石橋誠隆
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 医学書院
	参考図書、その他

講義名	卒業論文
講師名	専任教員（実務家教員）
学年・期	4年後期，2単位，60時間
講義目標	教師の指導のもとにテーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。自主的な研究の進め方と、研究成果の取りまとめ方とプレゼン技法の習得などを通じて、理学療法士として必要な、研究の基礎知識および技術を学ぶ。
授業計画	第1回 テーマの説明 第2回 研究の進め方 第3回) 研究計画書作成 第10回 第11回 中間検討・修正 第12回) 研究実施 第23回 第24回) データ解析・まとめ・論文作成 第27回 第28回 論文構成とりまとめ 第29回 研究論文（提出書類作成） 第30回 論文発表
履修上の注意	研究計画に沿って各自自主的に継続的かつ積極的に遂行すること 基本的な研究規約（ヘルシンキ宣言やインフォームドコンセント）は順守すること
成績評価	出された卒業論文の研究経過と内容、論文作成能力、卒論報告会での発表能力、学会報告、出席回数などにより、総合的に評価する。
テキスト	参考図書，その他
	特になし